

素敵なあやせ観光まちづくりプラン

＜”あい”のあふれるまち あやせ＞を目指して

自分の暮らすまちと「観光」はいまひとつ結びつかないことが多い。

それは、「観光」が自分にとっての「あたりまえ」を、

非日常的に他の人が楽しむコトだから。

「観光」を通じて素敵なまちをつくれないうか、みんなで考えました。



綾瀬市

平成27年3月

表紙写真：平成26年度綾瀬市景観フォトコンテスト 佳作『虹』

撮影者 西島 晃 様(綾瀬市在勤)

ごあいさつ

綾瀬市は都心へ約 40km、横浜へ約 20km の首都圏内にあり、西に大山・丹沢山塊を望み遠く富士を仰ぐ相模野大地に位置しています。いくつかの中小河川が丘陵をぬうように流れ、カワセミやアユ、ホタルが観られるなど、豊かな自然と人の優しさが魅力のまちです。



しかしながら、綾瀬市の将来人口は減少が予測されており、また、市内の産業、特に商業では、大型店による個店の淘汰が進んでいます。これは、地域の資金の市外流出を招くのみならず、地域にかけがえのない存在である個店が減ることで、「綾瀬らしさ」が失われつつある状況だといえます。

そのような中、市としては地域に新たな消費を呼び込むために、「綾瀬市の”ひと・もの・こと”」など市の魅力にふれて「いいところだ」、「住んでみたい・住み続けたい」と思う人を増やす手段として観光の推進が必要と考えています。

本プランはそのような状況を背景に、綾瀬市観光に関わる企業や市民組織の皆様、そして公募委員の方々により綾瀬市観光振興計画策定委員会を立ち上げて、今後の課題や方策について議論した結果をプランとしてとりまとめたものです。

加えて、平成 25 年度に一般社団法人綾瀬青年会議所と協働実施した「市民討議会まちづくり 2013」に基づく提案書や、平成 26 年度に開催した「観光オープンセミナー」で皆様からお寄せいただいた貴重な御意見、御提案も取り入れております。

このプランの策定にあたり御協力いただいた数多くの皆様に深く感謝を申し上げますとともに、本プランの着実な具現化に向け、皆さま方の更なる御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成 27 年 3 月

綾瀬市長 芝間 城治郎

CONTENTS

1 綾瀬に観光って必要なの？	1
1-1 綾瀬の抱える問題と観光に取り組む2つの理由	1
1-2 綾瀬に有名な観光資源はないけど、綾瀬で観光ってできるの？	2
2 目標はあるの？	4
2-1 「こうなりたい」というイメージ	4
2-2 イメージを一言にまとめた観光将来像	4
3 どうやって目標に到達するの？	5
3-1 やるべきこと = 5つのメインテーマと20のサブテーマ	5
3-2 ベンチマーク = 一定期間ごとの望ましい状態	6
3-3 進め方	10
4 誰がやるの？	10
4-1 多様な活動主体の力を合せた取り組み = 推進体制をつくる	10
4-2 新しい主体 = 立場の「壁」を超えた新しい組織をつくる	11
5 本当に実現できるの？	12
5-1 アクションプランを作成して着実に前進	12
5-2 定期的な進捗管理で継続的に成果を出し続ける	12
6 資料編	13
6-1 綾瀬市観光振興計画策定委員会	13
6-2 綾瀬市観光振興へ向けた取り組み状況	15
6-3 綾瀬市を取り巻く環境とその変化	16
6-4 この計画に関係する他の計画	27
6-5 綾瀬の観光資源	31
6-6 ベンチマークの設定根拠	45

はじめに

ものごとをうまく運ぶコツは「段取り」をつけることだと言われます。

このプランは近年注目される「観光」に綾瀬が取り組む「段取り」を書いたものです。

なぜ、いま綾瀬で観光なのか、目指すところはどこか、何をどのように進めていくのか、それは誰がやるのか、そして、本当にそれは実現できるのか。

綾瀬の観光にひとりでも多くの方に興味・関心を抱いてもらい、観光を通じて素敵なまちをみんなで作るために、作成しました。

1 綾瀬に観光って必要なの？

1-1 綾瀬の抱える問題と観光に取り組む 2 つの理由

● 郷土愛を育み、綾瀬に住む人を増やす

国の機関の推計によると、日本の総人口は、今後、どんどん減っていくものとされています。綾瀬はこれまで人口が増えていましたが、もうまもなくすると、同じように減少していくと考えられています。

まちの活力は「人」なくしては生まれません。そして、人を引き付ける力は、「郷土愛」や「まちの魅力」から生まれてきます。いま綾瀬に住んでいる人がこのまま住み続けたいと思い、住んでいない人には綾瀬に住みたいと思ってもらう。

こうした思いを生むきっかけのひとつとして、観光に取り組んでいこう。これが、綾瀬で観光に取り組むひとつめの理由です。



● 新たな産業として市内経済を発展させる

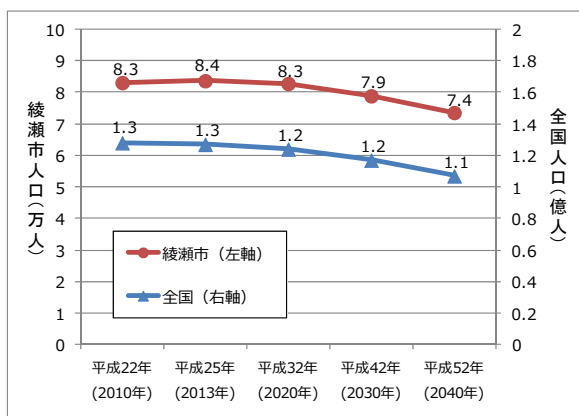
綾瀬では、近年、個人商店の数が減少しています。一方で、大型店が出店したり、コンビニエンスストアが増えたりといった変化はありますが、もともと市内で買い物をする割合が周辺市と比べて低い綾瀬では、このまま商業施設の大型化と小規模店の淘汰が進行すると、市内の経済に大きな影響を与えます。

こうした流れをふまえ、観光を新たな産業と位置づけ、育成することによって、市内の経済を発展させていこう。これが、綾瀬で観光に取り組むふたつめの理由です。

もちろん、観光で訪れる人が増えれば商業の活性化にもつながります。

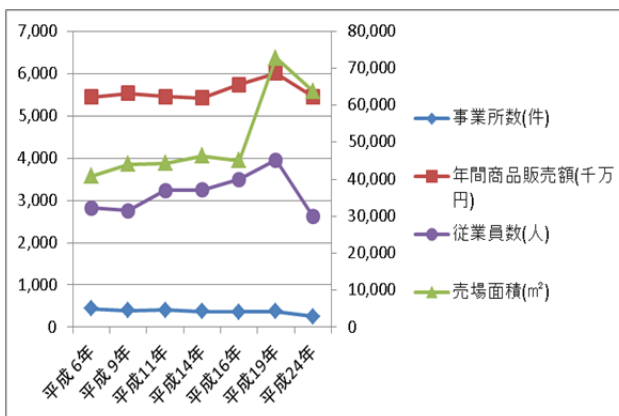


人口の見通し



注) 国立社会保障・人口問題研究所の推計より

商業の推移



注) 商業統計調査結果より

1-2 綾瀬に有名な観光資源はないけど、綾瀬で観光ってできるの？

●ふだんは気付かない面白さ

綾瀬には大きな遊園地や有名なお寺があるわけではありません。でも、お気に入りのお店や公園、あるいは楽しみにしているイベントなら、私たちの周りにたくさんあると思いませんか？

綾瀬で暮らしていれば当たり前のものごとも、市外から来た人には新鮮な面白さがある。

観光資源（ここでは観光の「芽」と呼びましょう。）と言えるものは、実は、私たちの身の回りにいくらでも潜んでいるものなのです。

●「綾瀬に遊びにおいでよ！」と言えるまちづくりが観光の原点

こうした観光の「芽」をいねいに見つけ出し、育てていくと、住んでいる人が楽しく、気持ちよく暮らせるまちが形づくられていきます。やがてその人たちは「綾瀬に遊びにおいでよ！」と言いたくなります。市外の人たちがその楽しさに気付いて、自ら訪れるようになるかも知れません。

そして、来訪者が増えれば「もっと楽しいまちにしよう」「もっときれいなまちにしよう」という意識が高まるばかりでなく、「自分もその仲間に入りたい」という人も出てくるでしょう。

この好循環を生み出すこと、すなわち「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」のまちづくりを行っていく手法が「観光まちづくり」です。

有名観光地がない綾瀬でも、このような手法なら、実現可能と思いませんか？



綾瀬における観光とは・・・

綾瀬の暮らしぶりを非日常的に楽しむこと



－綾瀬観光の“今”－

■綾瀬市と近隣市の入込観光客数の推移

平成 23 年度を除くと、おおむね年間 11 万余人で、近隣市のなかでは最も少ない状況です。

(単位：千人)

	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
綾瀬市	112	112	119	23	111	93
厚木市	3,436	3,579	3,800	3,092	3,248	3,200
大和市	1,723	1,890	1,829	1,030	1,644	1,676
海老名市	63	286	244	278	206	217
座間市	98	88	301	254	273	360

注) 平成 25 年度神奈川県入込観光客数調査報告書より

■主要行事別入込観光客数

入込観光客数のうち、8 割超が「綾瀬いきいき祭り」となっています。

行 事	入込観光客数
綾瀬緑化フェア(5 月)	5 千人 (5%)
綾瀬いきいき祭り(8 月)	80 千人 (86%)
綾瀬イルミネーション(12～1 月)	8 千人 (9%)

注) 平成 25 年度神奈川県入込観光客数調査報告書より

■綾瀬市が主催するツーリズム事業数・参加者数

平成 23 年度にサイクルツアーを実施し、初のツーリズム事業となりました。

平成 25 年度にまち歩きツアーを実施し、事業数が 2 になりました。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
事業数	1	1	2
延参加者数	54 人 (うち市外 23 人)	62 人 (うち市外 13 人)	103 人 (うち市外 33 人)

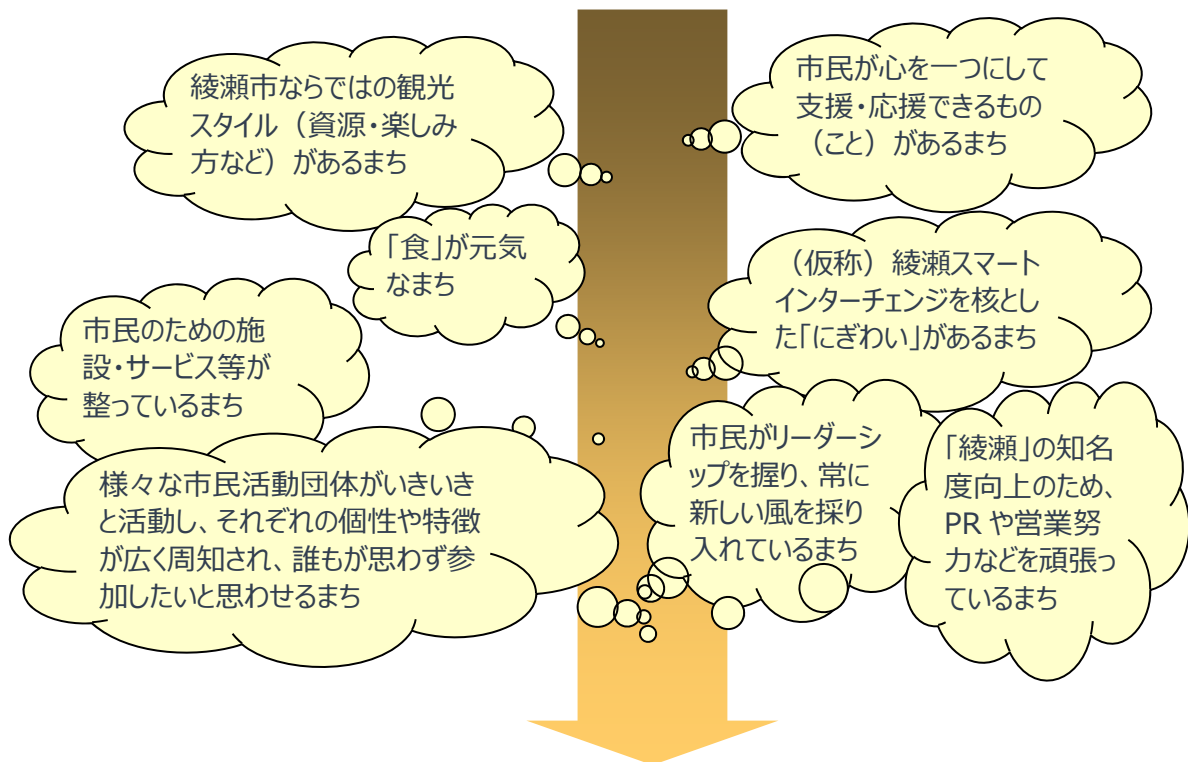


サイクルツアーのようす

2 目標はあるの？

2-1 「こうなりたい」というイメージ

- 委員会では、観光を通じてどのようなまちにしたいかを話し合い概ね次のような意見が出されました。



2-2 イメージを一言にまとめた観光将来像

- これらのようなイメージを一言にまとめたものを、観光将来像として掲げることにしました。

観光の将来像として一言でまとめると・・・

“あい”のあふれるまち あやせ

ここでいう“あい”には綾瀬市がいいところだと思う「地域愛」、そして綾瀬市を訪れる人が増えることで地域の人々と生まれる「出会い」、「ふれあい」、さらには観光まちづくりに取り組む人々の「支えあい」や「アイデア」といった意味が込められています。

たくさんの方が大切な人と幸せな時間を過ごせる「“あい”のあふれるまち あやせ」。これが、私たちの考えた綾瀬市の観光将来像です。

3 どうやって目標に到達するの？

3-1 やるべきこと = 5つのメインテーマと20のサブテーマ

それでは、何をどうすれば「“あい”のあふれるまち あやせ」は実現できるのでしょうか。

これには実に様々な意見が出ました。「有名な人に宣伝してもらおう」、「こんな施設・イベントがあるといい」…。その中で、多くの意見に共通する「これをやるべき」ということから観光将来像に向けた課題として5つのメインテーマを設定しました。また、それぞれのメインテーマにはより細かい取り組み課題としてのサブテーマを設定しました。

メインテーマ	サブテーマ	備考
特色あるまちづくり	1 綾瀬ならではの祭りの開催	
	2 厚木基地の活用	
	3 県内トップレベルの工業集積の活用	
	4 市民全員で支援・応援できるものをつくる	中長期的に検討
	5 農業の活用	
	6 グルメ開発	
	7 着地型旅行の継続・充実	
都市・交通基盤の整備・充実	8 インターを核とした交通拠点づくり	中長期的に検討
	9 気軽にサイクリング・散策できるまちづくり	
	10 集客力ある商業拠点づくり	中長期的に検討
	11 スポーツツーリズムの推進	中長期的に検討
	12 地元交通事業者との連携強化	
	13 マイカー・観光バスの利便性向上	
行政と市民等との協働の促進	14 市民が参画しやすい方策の導入	
人材の発掘・育成	15 セミナー・ワークショップ等の開催	
	16 若い担い手育成	
情報提供・案内・PRの充実	17 マスコットキャラクターの活用と支援	
	18 観光マップ等パンフレットの充実	
	19 ロケツーリズムの推進	
	20 メディアを活用し露出を増やす	

※この取り組みについては5で述べる「アクションプラン」を作成し、平成27年度から取り組みを始めます。特に中長期的に検討するものは備考欄にその旨記載しました。

3-2 ベンチマーク＝一定期間ごとの望ましい状態

併せて、メインテーマごとに「3年後、6年後、10年後までにはここまで達成したい」というベンチマーク（＝期間ごとの望ましい状態）を設定しました¹。ただし、綾瀬市の観光は始まったばかりで、統計的なデータが不足しています。そこで、目安として設定する指標や数値がこれでふさわしいのか、このプランの策定後の3年間で検証して、平成29年度には指標や数値の設定が適当かどうか再度検討します。

ベンチマーク				
項目	現状	平成29年度	平成32年度	平成36年度
イベント参加者数	93千人	130千人	170千人	253千人
ツアー参加者数	103人	200人	250人	300人
消費単価	1,252円	3,000円	4,000円	5,000円
活用されている 観光資源数	97件	100件	107件	115件
観光ルート数	12ルート	12ルート	13ルート	17ルート
市民活動センター 登録団体数	138団体	140団体	145団体	150団体
セミナー・ワークショップ 開催数	年3回	年5回	年5回	年5回
ロケ受入実績	30件	50件	60件	70件
マスメディア(紙面) 掲載実績	18件	25件	40件	50件

¹ ベンチマークの設定根拠等については p.45 6-6「ベンチマークの設定根拠」を参照。

(1) 特色あるまちづくり

綾瀬の特色を活かした、テーマ性のあるまちづくりを進め、市民がひとつになれるもの(こと)をつくります。

① 綾瀬ならではの祭りの開催

綾瀬の観光を象徴するイベントとしての祭りを開催します。

② 厚木基地の活用

市内で大きな存在感を放つ基地を、観光資源という視点でとらえて活用を図ります。
例) 基地見学会、基地関連グルメ開発など。

③ 県内トップレベルの工業集積の活用

綾瀬の製造事業所数は県内でもトップレベルであり、多くの企業が優れた技術・人材を有しているため、工場見学ツアーなど工業集積を活用します。

④ 市民全員で支援・応援できるものをつくる

例えばプロスポーツチームのように、市民全員で支援・応援できるものをつくります。

⑤ 農業の活用

県内でも生産量トップ5入りするほどのブロッコリーをはじめ、市内に広がる畑や高座豚で有名な畜産など、農業を活用します。例) 地場野菜のレシピ公募、収穫体験ツアーなど

⑥ グルメ開発

観光の中で大きなポイントとなる食。綾瀬ならではのグルメを開発し、来訪者の増加と満足度向上を図ります。例) ワークショップ開催、イベント出店など

⑦ 着地型旅行の継続・充実

サイクルツアーやまち歩きツアーなど、地域で開発した旅行商品を継続して実施するとともに、開催回数の増加や規模の増大など内容を充実させます。



綾瀬のこともっと知ろう！
「工場見学まち歩きツアー」のひとつコマ



市民活動団体「地球チャイルド」による秋の稲刈り体験



あやせ事業者パワーアッププロジェクトでのグルメ開発

(2) 都市・交通基盤の整備・充実

市民と来訪者の双方の満足度が高い、都市・交通基盤やサービスを充実させます。

⑧ インターを核とした交通拠点づくり

例えば道の駅やハイウェイオアシスの整備など、平成 29 年度に設置予定の（仮称）綾瀬スマートインターチェンジを核とした交通拠点をつくります。

⑨ 気軽にサイクリング・散策できるまちづくり

遊歩道や案内サイン整備などを通じて、気軽にサイクリング・散策ができるまちづくりを進めます。



⑩ 集客力ある商業拠点づくり

来訪者が買い物ができるように、都市中心拠点において、広域からの集客を担う商業機能を強化します。

川沿いのサイクリングロードやせせらぎ広場の木道は気軽にサイクリングや散策ができる憩いの場となっている

⑪ スポーツツーリズムの推進

綾瀬市民スポーツセンターや綾瀬スポーツ公園など、既存のスポーツ施設を活用して、スポーツの観戦者やスポーツイベント参加者に綾瀬の観光を楽しんでもらえる取り組みをします。

⑫ 地元交通事業者との連携強化

路線バスやタクシーと連携し、来訪者が快適に移動できる環境をつくります。

例) バスルート、のりば、時刻表などを掲載する観光ガイドの作成など

⑬ マイカー・観光バスの利便性向上

例えば駐車場情報などドライバー向け観光ガイドのコンテンツをつくるなど、マイカー・観光バスの利便性を向上します。

(3) 行政と市民等との協働の促進

官民協働・住民参加を基本理念として、行政と市民等との協働を促進します。

⑭ 市民が参画しやすい方策の導入

例えば市民が自ら観光プログラムを登録できる観光カレンダーを開発・運用するなど、市民が参画しやすい環境を整えます。

(4) 人材の発掘・育成

観光の担い手となる人材の発掘・育成を行います。

⑮ セミナー・ワークショップ等の開催

来訪者数を増やしたり、満足度を高めたりするために、外部から専門家を招き、セミナー、ワークショップなどを通じて人材を発掘・育成します。



セミナー開催で人材を育成

⑯ 若い担い手育成

例えば観光に興味のある近隣の大学生と共同で観光コンテンツ開発をするなど、柔軟な発想で、新しいことに積極的にチャレンジする若い担い手を育てます。

(5) 情報提供・案内・PR の充実

市内外へ向けた観光の取り組みに関する情報提供、案内、PR を充実させます。

⑰ マスコットキャラクターの活用と支援

人々に親しまれる綾瀬市マスコットキャラクター「あやびい」や公認キャラクター「ブタッコリ〜」をはじめとするマスコットキャラクターを活用し、綾瀬のイメージを効果的にPRします。



綾瀬市マスコットキャラクター あやびい



綾瀬市公認キャラクター ブタッコリ〜

⑱ 観光マップ等パンフレットの充実

綾瀬を観光する案内書としての観光マップなど、パンフレットを充実させます。

⑲ ロケツーリズムの推進

ドラマや映画などの撮影を誘致することで、映像作品を通じて効果的に綾瀬をPRします。また、映像作品に関連するロケ地やグルメを観光資源として活用します。

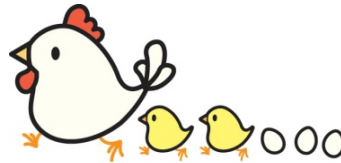
⑳ メディアを活用し露出を増やす

話題性を提供しマスメディアに取りあげてもらうことはもちろん、ツイッターやフェイスブックなど近年大きな社会的影響力を持つようになったソーシャルメディアを有効に活用します。

3-3 進め方

いずれのメインテーマ・サブテーマにも共通して、次のとおり進めます。

- 市民主導でできる小さなことから始めます。日々、多くの団体が活発に活動している市民活動を観光に活かします。
- 施設整備を伴うものは、（仮称）綾瀬スマートインターチェンジの開設を契機とするなど、中・長期的な視点で取り組みます。
- 市民がまず綾瀬のことをよく知り、郷土愛を高めるため、市内への情報発信を進め、観光の取り組みに対する認知と理解の向上を図ります。
- 市外へ向けては、マスコミ等メディアを活用し、情報発信・PRを積極的かつ継続的に実施します。

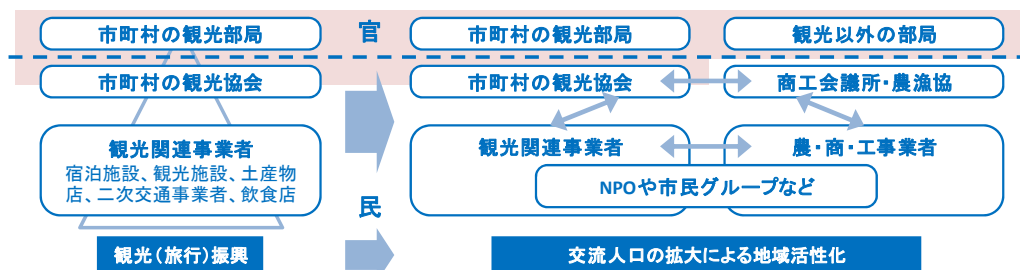


小さく産んで大きく育てる・・・

4 誰がやるの？

4-1 多様な活動主体の力を合せた取り組み = 推進体制をつくる

「こうなりたい」というまちのイメージに向けて「やるべきこと」が決まったら、次に問題になるのはそれを「誰がやるのか」です。下の図は近年全国的にみられる観光に取り組む主体の関係性の変化を示しています。従来は市役所や旅行会社など一部の観光事業者だけで観光振興を図っていましたが、観光まちづくりを進めるためには、地域全体で多様な活動主体の魅力や強みをうまく連携させる推進体制をつくる必要があると考えられます。



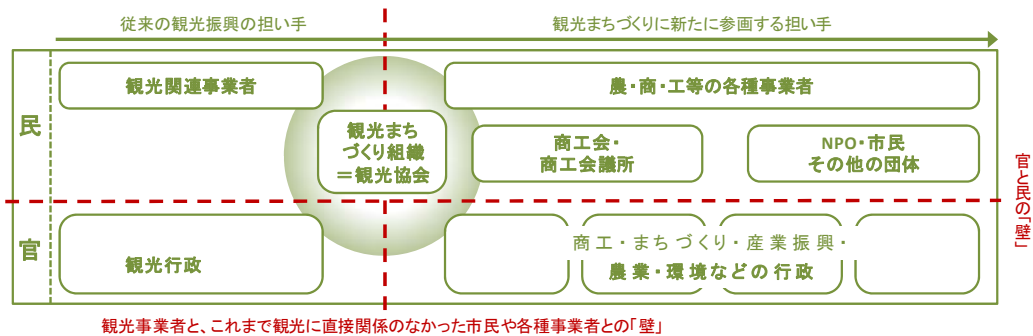
官・民のステークホルダー（利害関係者）の変化

4-2 新しい主体 = 立場の「壁」を超えた新しい組織をつくる

地域の推進体制を考えると、現状ではそれぞれの組織・団体の間には活動の分野、性質などによって「壁」があることに気がきます。それは、「官と民（行政と市民・民間事業者）」の壁と、「観光事業者と観光に直接関係ない市民・民間事業者等」の壁です。

こうした組織体制は、役割分担が明確という側面はあるものの、効率性や機動性の面で問題があります。そこで、委員会では「壁」を超えて色々な組織や団体を取りまとめることができる組織 = 観光まちづくり組織が必要だろうという結論に至り、今後発足に向けた議論を行います。

観光まちづくり組織の機能は、組織・団体のとりまとめにとどまらず、市民の一人ひとりが観光まちづくりに参画できる環境を整えるという面でも重要です。さらには、情報の一元的収集・発信機能、観光事業の実施主体としての機能（旅行商品の企画、販売資格もある）なども考えられます。このような機能を有する主体を一般的に DMO（Destination Management Organization）と呼び、今後綾瀬の観光をけん引する原動力となることが期待されます。



新たな観光まちづくり組織のポジショニング

コラム 市役所は何をやるの？

市役所（行政機関）はこれまで、色々な組織や団体を結びつけたり、情報発信、活動場所の提供などをやってきました。しかし、行政機関だと営利事業ができない、どんな人にも公平に対応しなければいけない（特定のお店などをお勧めできない）、市のエリアに活動の領域が制限される、数年で担当者が異動するため専門性がないなどの弱点があります。

新しい推進体制の中では、市役所は、地域全体の課題は何か、公的なお金をどこに投資するかといった政策判断をしたり、みんながうまく協力して観光に取り組めるように調整したりする、マネジャーとしての役割を中心に、観光と関わっていくことが想定されます。



5 本当に実現できるの？

5-1 アクションプランを作成して着実に前進

どんなに立派な計画を策定しても、それが実行されて、きちんと成果を残さなければ意味がありません。そのため、計画を実現するツールとして、1年ごとに誰が、何を、どこまでやるか、アクションプランを定め、着実に前進できるようにします。

5-2 定期的な進捗管理で継続的に成果を出し続ける

アクションプランにしたがって定期的に進捗状況や達成度をチェックします。

予定どおり進んでいれば、次の段階へ取り組みを進めたり、さらに高い目標を掲げなおしたりする一方、もし予定どおり進んでいない場合は、速やかにフォローアップ対策を実施するなど、継続的に成果を出し続けられるように努めます。

また、綾瀬の状況だけでなく、政治・経済・社会・技術的变化など外部環境の変化についても地域内で情報を共有し、必要な対応を図ります。



6 資料編

6-1 綾瀬市観光振興計画策定委員会

(1) 委員名簿

(敬称略)

No.	区分	団体	職 氏名	備考
1	有識者	NPO 法人グローバルキャンパス	理事長 大社 充	委員長
2	市民団体	あやせプロモーションクラブ	リーダー 松村 孝徳	副委員長
3	産業	綾瀬市商工会	事務局長 小俣 敏男	
4	産業	JA さがみ綾瀬地区運営委員会	事務局長 沢田 雄司	
5	産業	綾瀬市商店会連合会	会長 清水 勝美	
6	飲食	綾瀬市料理飲食店組合	組合長 金子 敏雄	
7	交通	相鉄バス(株)運輸部 綾瀬営業所	所長 土屋 徹	
8	交通	神奈川中央交通(株) 運輸営業部	部長 齋藤 謙司	
9	市民団体	コミュニティサポートあやせ	理事 遁所 好男	
10	市民団体	あやせ市ブタッコリ～ロケ隊	隊長 比留川 実	
11	メディア	(株)KADOKAWA 横浜ウォーカー	編集長 鷹取 祐子	
12	公募委員		劔持 栄	
13	公募委員		前田 幸生	
14	公募委員		森田 智子	
15	行政関係者	神奈川県県央地域県政総合センター 企画調整部 商工観光課	課長 内田 俊弘	

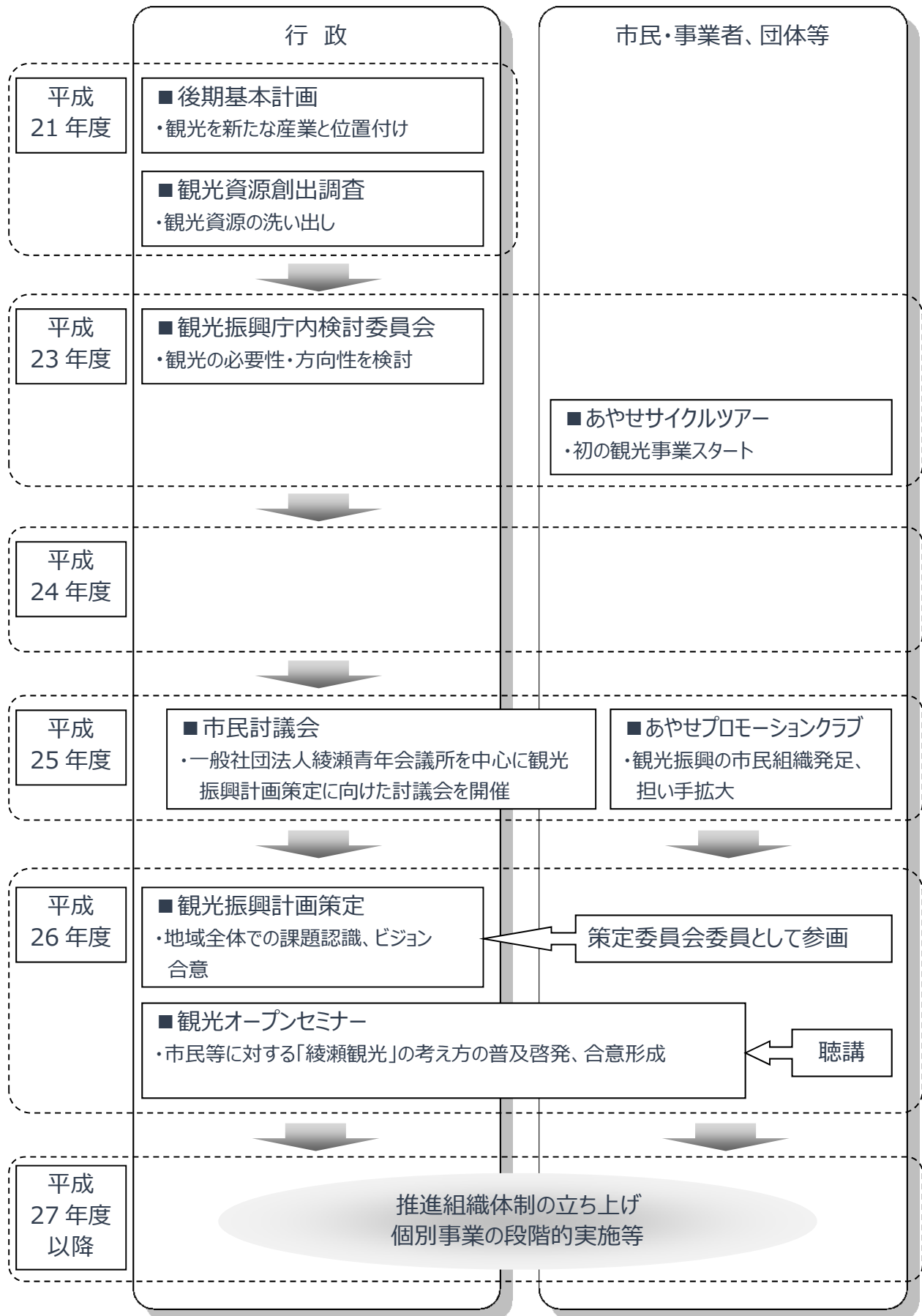
(2) 開催経過

回	日時	場所	議題
第1回	平成26年5月20日(火) 15:30~17:00	市役所 310 会議室	・観光振興計画策定の趣旨について ・効果的な観光振興について ・年間スケジュールについて
第2回	平成26年6月23日(月) 15:00~17:00	市役所 309 会議室	・綾瀬市観光の現状について ・綾瀬市観光の方向性について ・その他
第3回	平成26年7月28日(月) 15:00~17:00	市役所 教育研究所 視聴覚室	・綾瀬市観光の方向性について ・具体的な方策の抽出について ・その他
第4回	平成26年11月7日(金) 15:30~17:00	市役所 教育研究所 視聴覚室	・計画策定後の推進体制の検討 ・アクションプランの作成 ・その他
第5回	平成27年1月16日(金) 15:00~17:00	市役所 J1-1 会議室	・計画最終案 ・その他

(3) 観光オープンセミナー

回	日時	場所	テーマ・パネリスト
第1回	平成26年8月2日(土) 13:45~16:00	市役所 7階市民展 示ホール	「いま、なぜ綾瀬観光なのか」 ・ NPO 法人ハットウ・オンパク 代表理事 鶴田浩一郎氏 ・ 東京都産業労働局 松本武三氏
第2回	平成26年9月6日(土) 13:45~16:00	市役所 315 会議室	「綾瀬観光における市民の役割」 ・ 墨田区観光協会 理事 久米信行氏 ・ 大和市イベント観光協会 事務局長 星野俊江氏
第3回	平成26年12月21日(日) 13:45~16:00	市役所 315 会議室	「綾瀬観光は誰がどうやって進めていくの？」 ・ イデアパートナーズ(株) 代表取締役社長 井手修身氏 ・ 綾瀬市観光振興計画策定委員会 委員 剣持栄氏 ・ 綾瀬市民 見上のどか氏 ・ 綾瀬市民 兼坂涼氏

6-2 綾瀬市観光振興へ向けた取り組み状況



6-3 綾瀬市を取り巻く環境とその変化

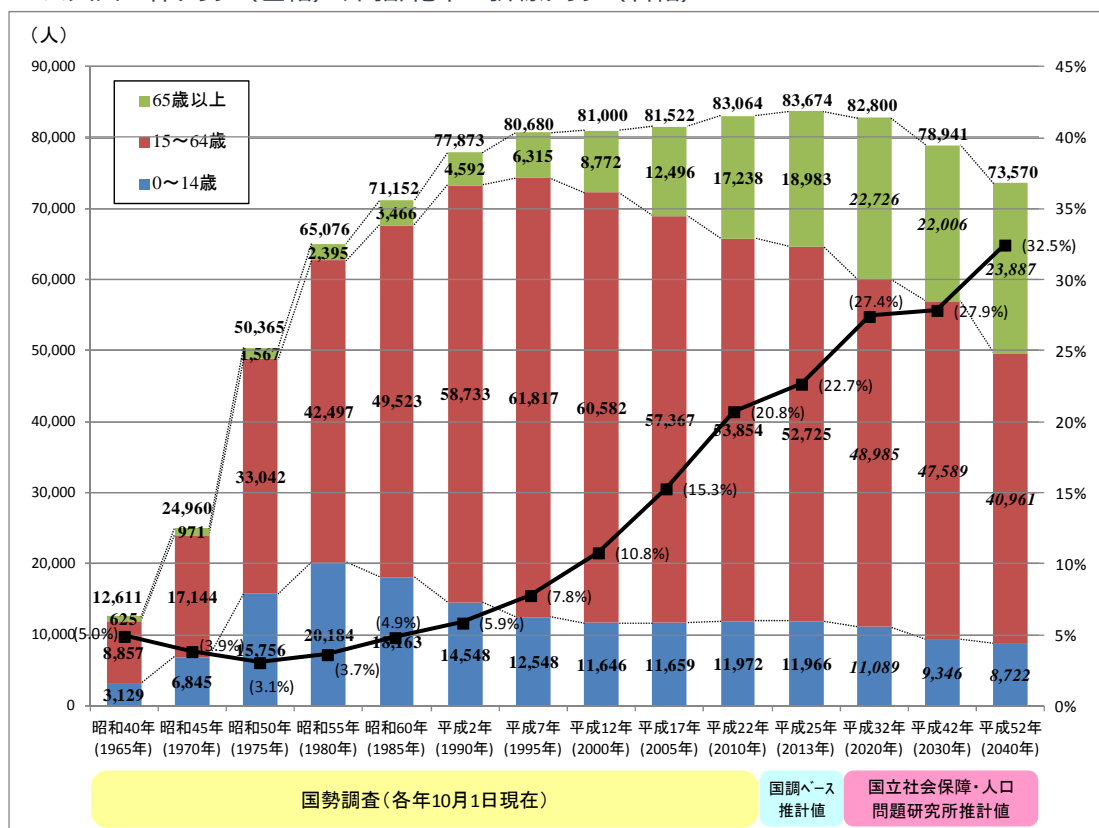
(1) 人口の動向

① 年齢階層別人口の推移

綾瀬市の人口は、昭和 40 年後半の大規模市街地開発に伴い急激に増加し、昭和 53 年の市制施行時は約 59,000 人でした。その後、伸び率は低下したものの増加傾向は続き、平成 7 年以降は微増状態となって、平成 25 年現在の人口は 83,674 人となっています。

将来の推計人口では、総人口は減少に転ずる一方、65 歳以上は増加する見通しで、平成 52 年（2040 年）には、総人口のおよそ 3 分の 1 が 65 歳以上となるものと推計されています。

※人口 = 棒グラフ（左軸）、高齢化率 = 折線グラフ（右軸）



注) 年齢不詳を除く

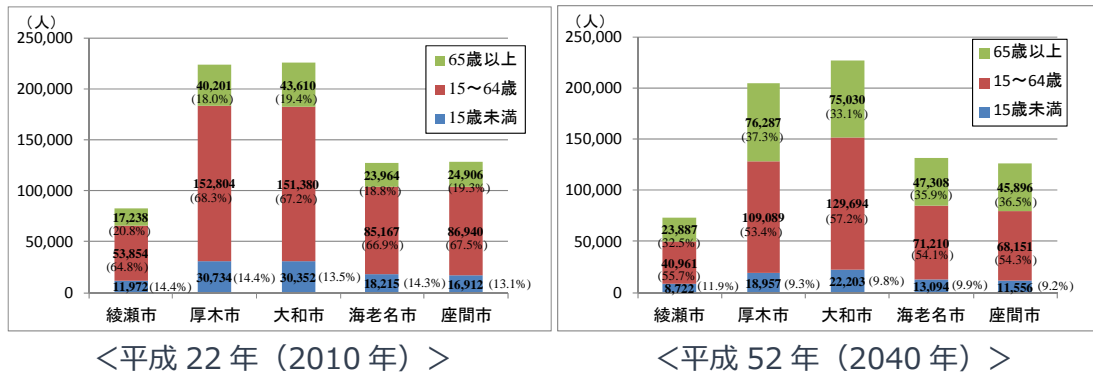
出典：昭和 40 年～平成 22 年は国勢調査(毎年 10 月 1 日)人口、平成 25 年は国勢調査ベースの推計人口、平成 32、42 及び 52 年は国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に基づく

図表 年齢別にみた綾瀬市人口の推移と将来見通し

②近隣市町村との人口構造の比較

綾瀬市の65歳以上人口比率（高齢化率）は、平成52年（2040年）には32.5%に達するものと推計されますが、近隣市の中では最も低く、一方、15歳未満比率は最も高いものと推計されています。

これは綾瀬市が住宅地として開発する余力が大きく、相対的に近隣市よりも人口が流入しやすい都市構造であることなどが背景にあるものと推察されます。



注) 四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。

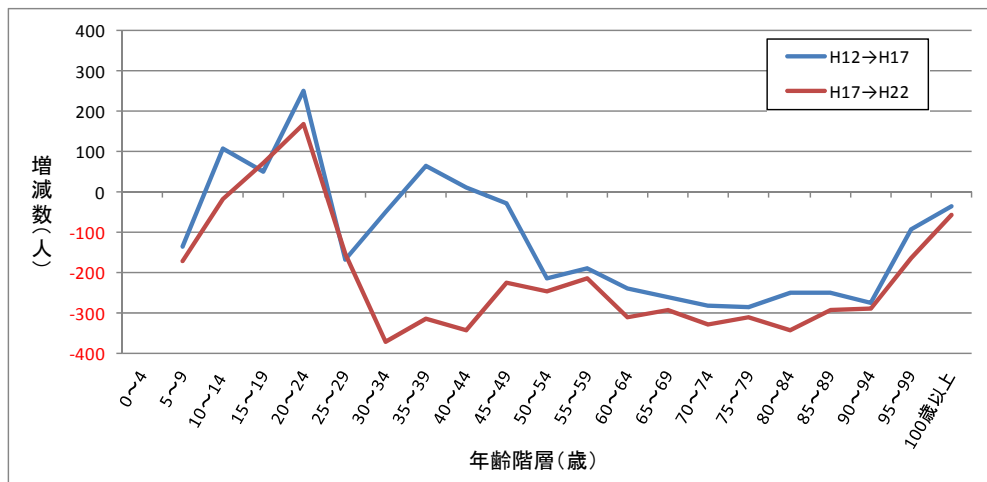
出典: 平成22年は国勢調査に基づく数値、平成52年は国立社会保障・人口問題研究所推計値

図表 年齢別人口の近隣市との比較

③年齢階層別人口の増減状況

20～24歳を筆頭に、10歳代から20歳代前半の人口が、ここ10年で増加基調にあります。

平成12～17年の間に35～39歳がやや増加したことを除けば、各年齢階層とも減少基調にあります。



出典: 国勢調査

図表 年齢階層別人口の増減状況

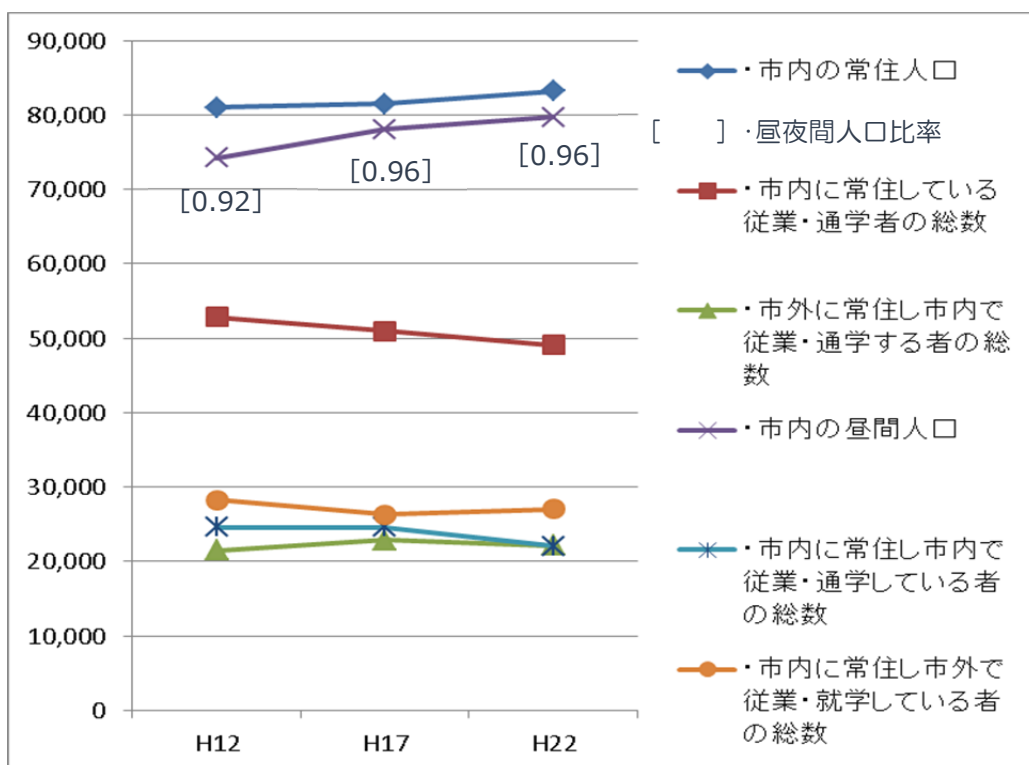
④ 常住人口・昼間人口の状況

<常住人口・昼間人口の推移>

常住（夜間）人口及び昼間人口は増加しています。

昼夜率（昼間人口÷常住（夜間）人口）は 1.0 を下回り、流出超過となっていますが、平成 17 年以降は上昇し、市内で生活が完結する人の割合が高まっています。

市内に常住して、市内で従業・通学している人及び市外で従業・通学している人は、いずれも減少しています。



出典：国勢調査各年

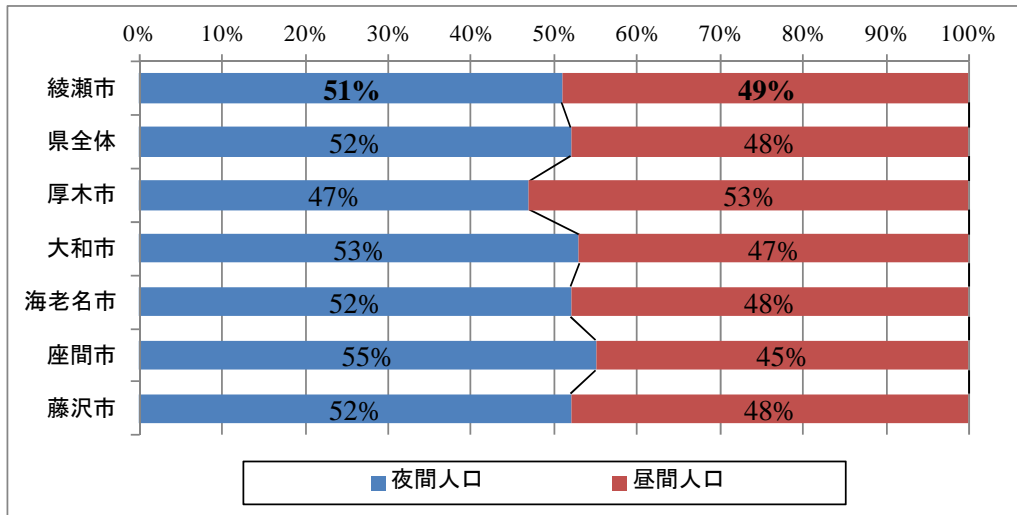
図表 常住人口・昼間人口の推移



<近隣市との比較>

◆夜間人口・昼間人口の割合

近隣市では厚木市のみ流入超過となっており、従業地・通学地的な性格を有しています。一方、綾瀬市を含むその他の市はいずれも流出超過で、住宅地的な性格を有しています。

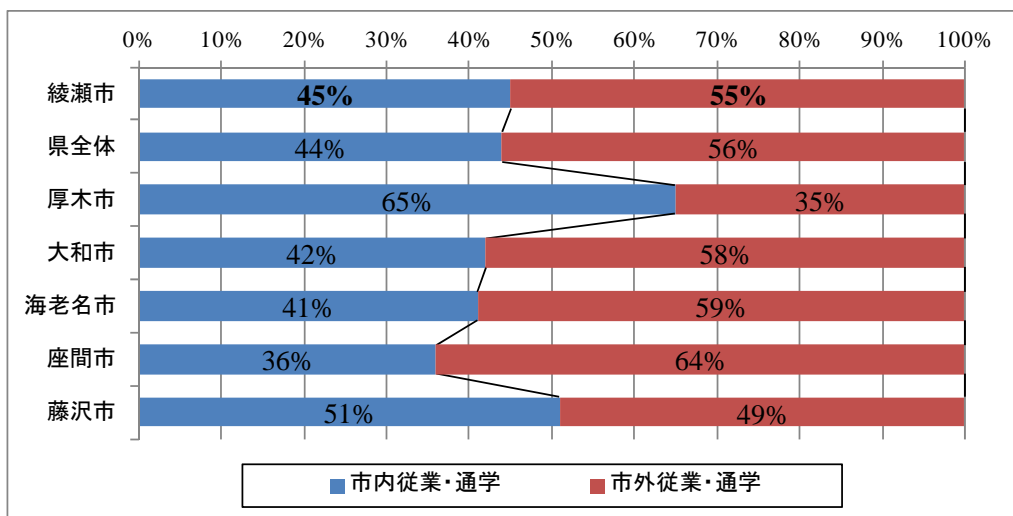


出典：平成 22 年国勢調査

図表 近隣市と比較した夜間人口・昼間人口の割合

◆市内に常住し、従業・通学している人の内訳

綾瀬市は、市外に従業・通学する人の割合が、市内に従業・通学する者の割合より 10 ポイント高くなっています。近隣市と比較すると、市外従業・通学する人の割合は、大和市、海老名市、座間市よりも低いですが、厚木市、藤沢市よりも高くなっています。



出典：平成 22 年国勢調査

図表 近隣市と比較した市内外の従業・通学人口の割合

(2) 経済・産業の動向

①商業(小売業)

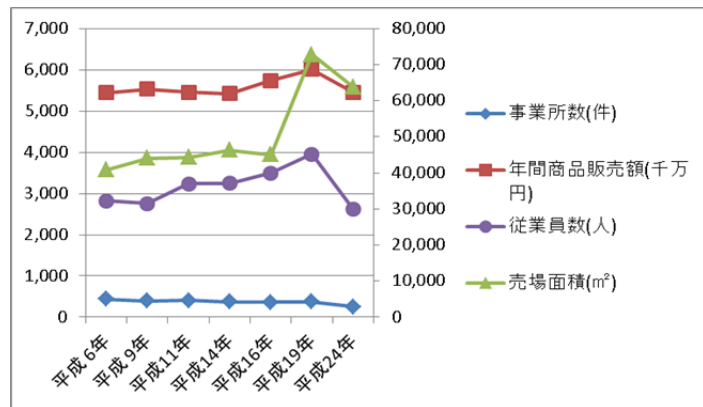
<市内小売業の事業所数、年間商品販売額、売場面積、従業員数の推移>

平成 24 年における市内の小売業の事業所数は 255 件、年間商品販売額は約 545 億円、売場面積は約 6 万 4,000 平方メートル、従業員数は約 2,600 人となっています。

平成 3 年から平成 16 年にかけては、事業所数は減少している一方で、年間商品販売額は微増し、売場面積、従業員数は増加傾向でした。このことは、商業施設の大型化と小規模店の淘汰が進行したことを示しています。

平成 17 年 3 月に大型商業施設である綾瀬タウンヒルズショッピングセンターがオープンしたことにより、売場面積が急増しました。

平成 19 年から平成 24 年にかけては、事業数及び従業員数は 3 割程度急減し、販売額、売場面積は 1 割程度の減少にとどまるものの、総体的にみて小売業は急激に衰退しています。



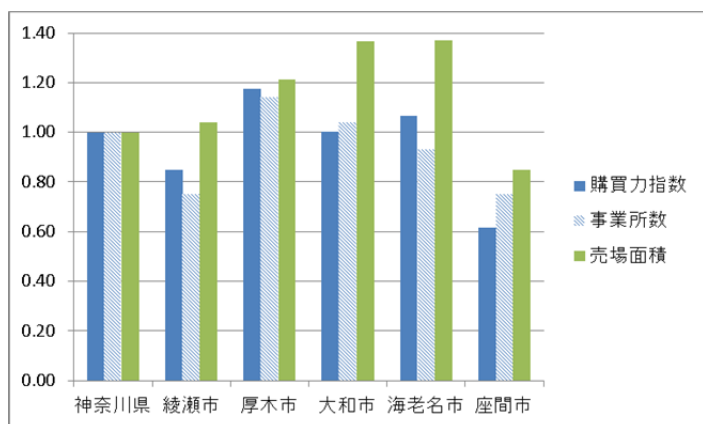
出典：商業統計調査

図表 小売業事業所数、販売額、従業員数等の推移

<近隣市との比較>

綾瀬市の千人当たり小売業事業所数は 3.06 件で、近隣市の中では最も少ない水準です。また、購買力指数は 0.85 で座間市の 0.62 に次いで低く、市民の購買力の 15%は市外へ流出しています。

このように、総じて商業集客力が弱い状況にあるといえます。



出典：商業統計調査

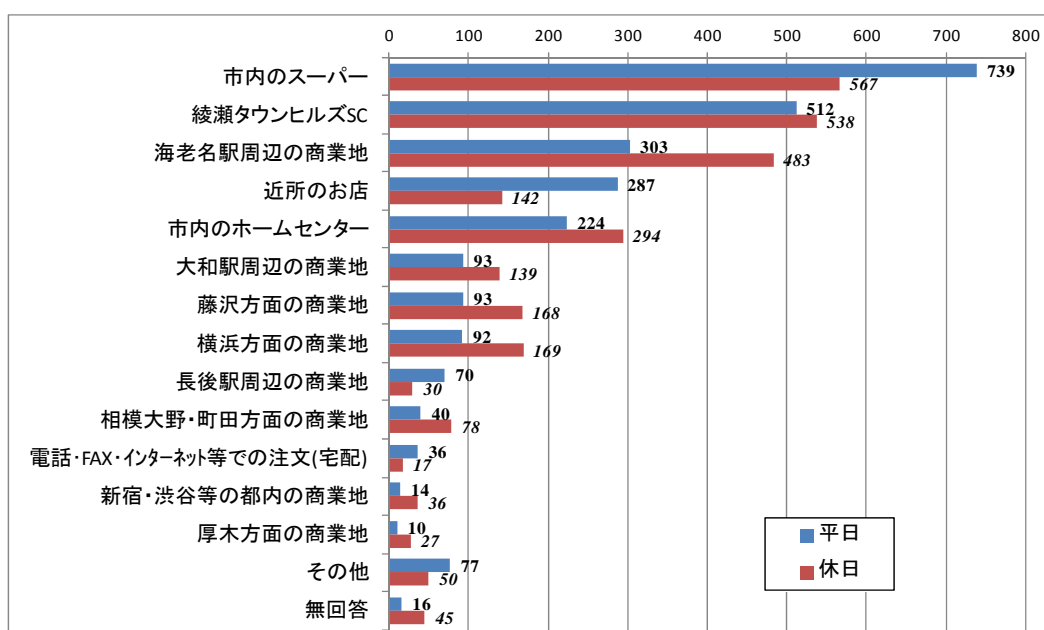
図表 購買力、事業所数、売場面積の比較
(神奈川県を 1 としたときの指数)

＜市民の買い物動向＞

平日の買い物先は「市内のスーパー」が最も多く、次いで「綾瀬タウンヒルズ SC」の順となっており、市外に本社を置く企業に市民のお金が流出しているといえます。

「近所のお店」に関しては、平日は「市内のスーパー」や「タウンヒルズ SC」ほどの利用ではありませんが、選択肢の候補として4番目にあげられています。しかし、休日になると、利用割合は下がっています。

休日の買い物先は「市内のスーパー」「綾瀬タウンヒルズ SC」のほか、「海老名駅周辺の商業地」や「市内のホームセンター」も上位にきています。



注) 総回答数は1,173件

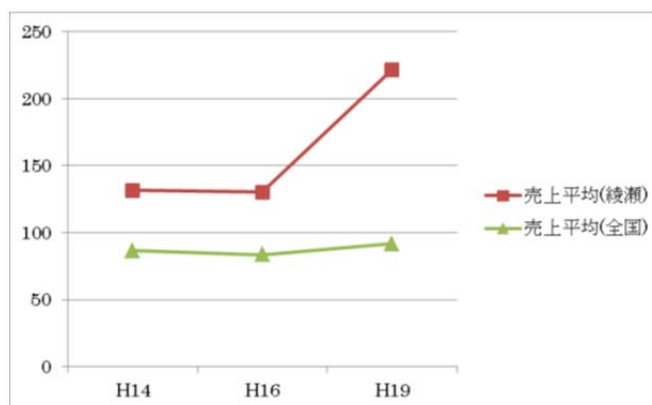
出典：綾瀬市産業振興マスタープラン（商業編）調査報告書

図表 平日・休日における市民の買い物先

＜コンビニ等売上高(注)＞

市内のコンビニ等の年間売上高の平均は、全国平均を上回っています。

注) 平成24年度経済センサスより、「その他の飲食料品小売業」の数値を引用。コンビニの他、牛乳、酒、料理、豆腐、乾物等の数値を含む



図表 コンビニ等売上高の推移(単位：百万円/年)

②農畜産業

市内の農業は、ブロッコリー・トウモロコシを主体とした畑作、トマト・キュウリを生産している施設野菜、豚を中心とした畜産が営まれています。近隣市と比べると豚の経営体が多いことが特徴です。

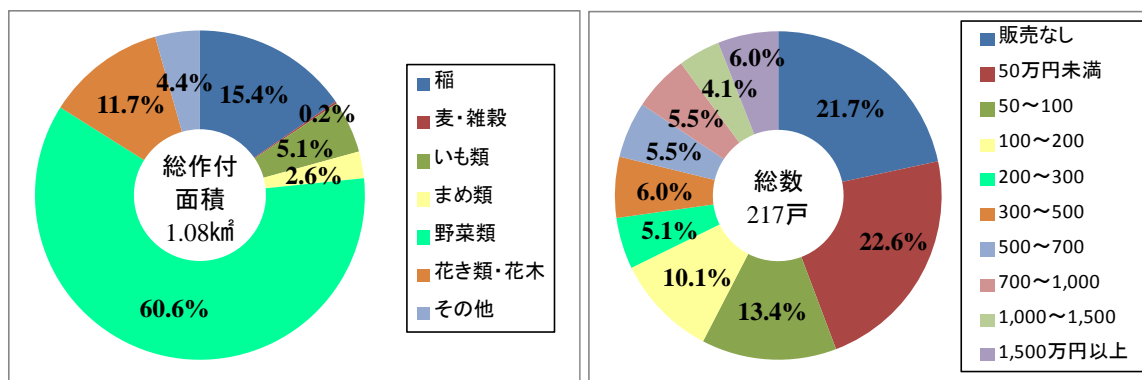
都市化の進展や経営者の高齢化などの環境変化を受け、経営の合理化や、高座豚を使った特産品開発など、さまざまな取り組みが行われています。

図表 経営耕地面積

年度	綾瀬市			近隣市（平成 22 年）			
	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	厚木市	大和市	海老名市	座間市
面積(km ²)	2.40	1.90	1.72	6.48	1.46	4.18	1.17
対総面積比(%)	10.8	8.5	7.7	6.9	5.4	15.8	6.7

注) 自給的農家（経営耕地面積が 30 a 未満かつ調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円未満の農家）を除く

出典：2010 年世界農林業センサス



図表 作物種類別作付面積割合

図表 農産物販売金額別農家数

注) 自給的農家（経営耕地面積が 30 a 未満かつ調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円未満の農家）を除く

出典：2010 年世界農林業センサス

図表 家畜等の飼養経営体数、飼養頭羽数

		乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏	
		経営体数	飼養頭数	経営体数	飼養頭数	経営体数	飼養頭数	経営体数	飼養羽数
綾瀬市		4	110	4	132	4	2,237	6	326 千
近隣市	厚木市	13	412	2	X	2	X	4	8.6 千
	大和市	3	X	2	X	-	-	1	X
	海老名市	4	111	-	-	-	-	2	X
	座間市	2	X	3	15	--	-	3	175 千

出典：2010 年世界農林業センサス

③工業

市内の事業所数は 417 事業所で県内 4 位の数を持ち、従業員数、製造品出荷額等も含めいずれも近隣市を上回るなど、工業が盛んな市です。

産業別では「金属製品」及び「一般機械」で全体の半数近くを占めますが「輸送用機械」の割合も高いことが特徴のひとつです。

製造品出荷額等でみると「輸送用機械」が筆頭ですが、世界的な景気に影響されやすく、リーマンショックに端を発する近年の不況の影響を受けています。

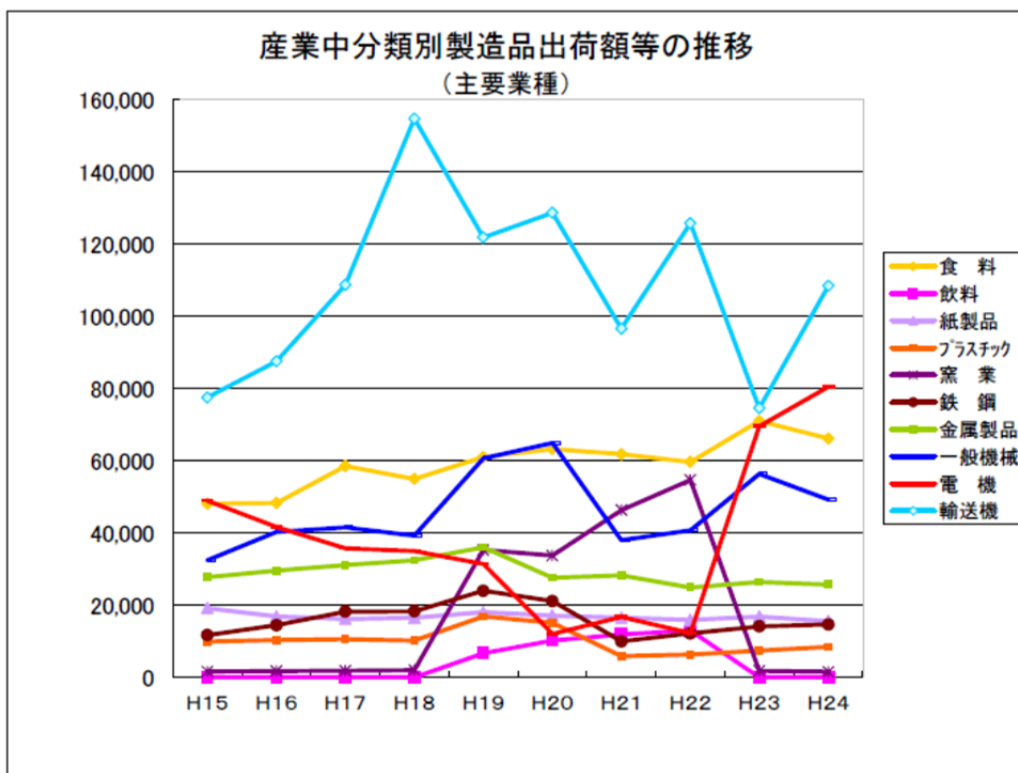
工業団地は、県工場立地図に基づく 4 か所と、2 つの任意団地があります。

図表 事業所・従業員数・製造品出荷額等の現状

項目	神奈川県	綾瀬市	県内 順位	県内 比率	参 考（周辺市の状況）				
					藤沢市	厚木市	大和市	海老名市	座間市
事業所数	8,910	417	4位	4.7%	328	349	246	136	147
従業者数(人)	367,168	12,432	10位	3.4%	21,769	18,405	9,820	7,106	7,640
製造品出荷額等 (億円)	174,613	4,114	10位	2.4%	12,516	6,213	3,254	2,840	2,918

注) 従業者 4 人以上の事業所

出典：平成 24 年工業統計調査結果報告



注) 「綾瀬市工業の現状～H24 県工業統計調査から～」より図を引用

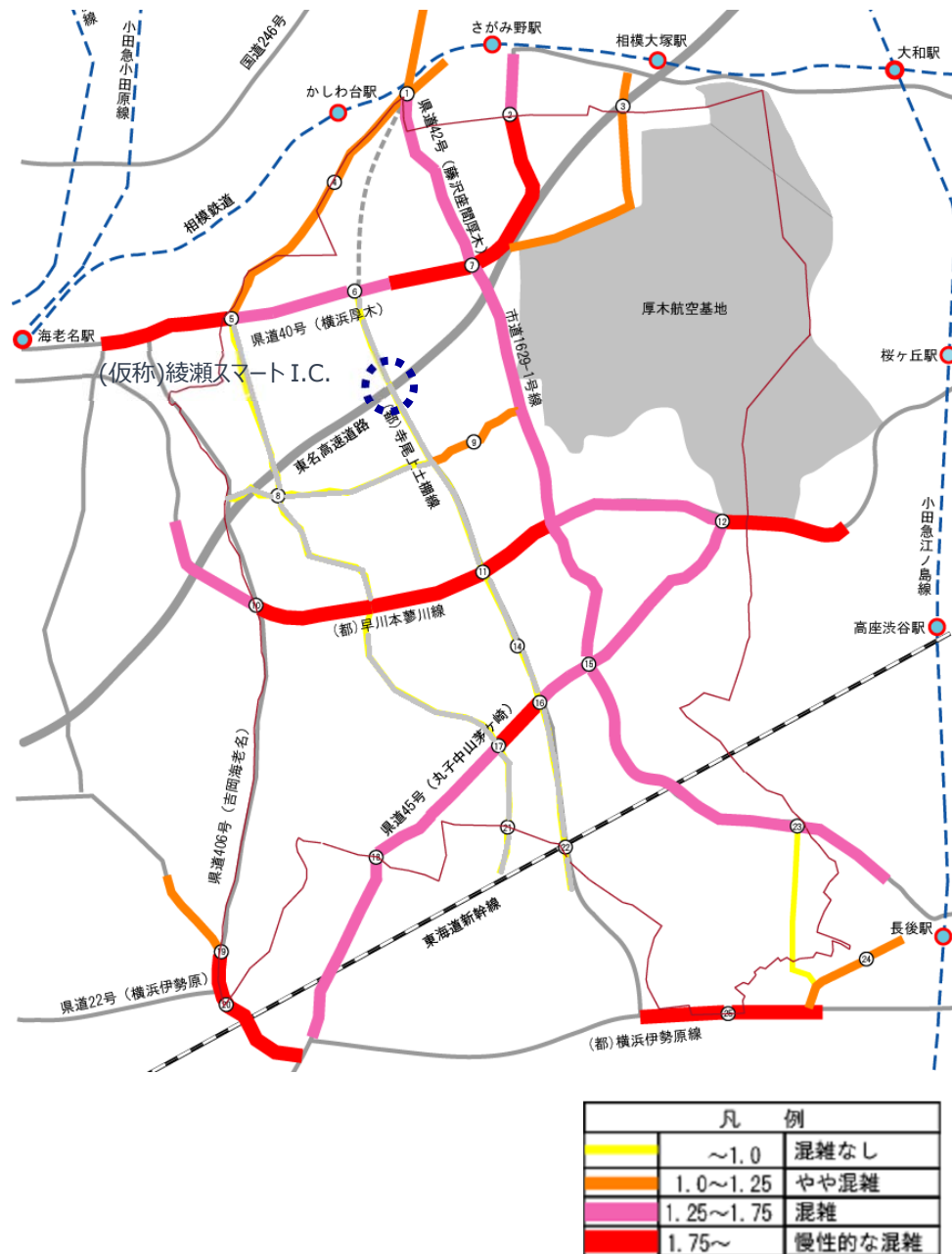
図表 製造品出荷額等の推移

(3) 交通アクセスの現状

①道路網及び自動車交通

市内は県道を中心に骨格道路が形成されており、県央地域における広域的な交通を受け流しています。市の流入入に係る区間を中心に、混雑度 1.75 以上（慢性的な渋滞）の区間があります。

平成 29 年には、東名高速道路に（仮称）綾瀬スマートインターチェンジの開設が予定されています。



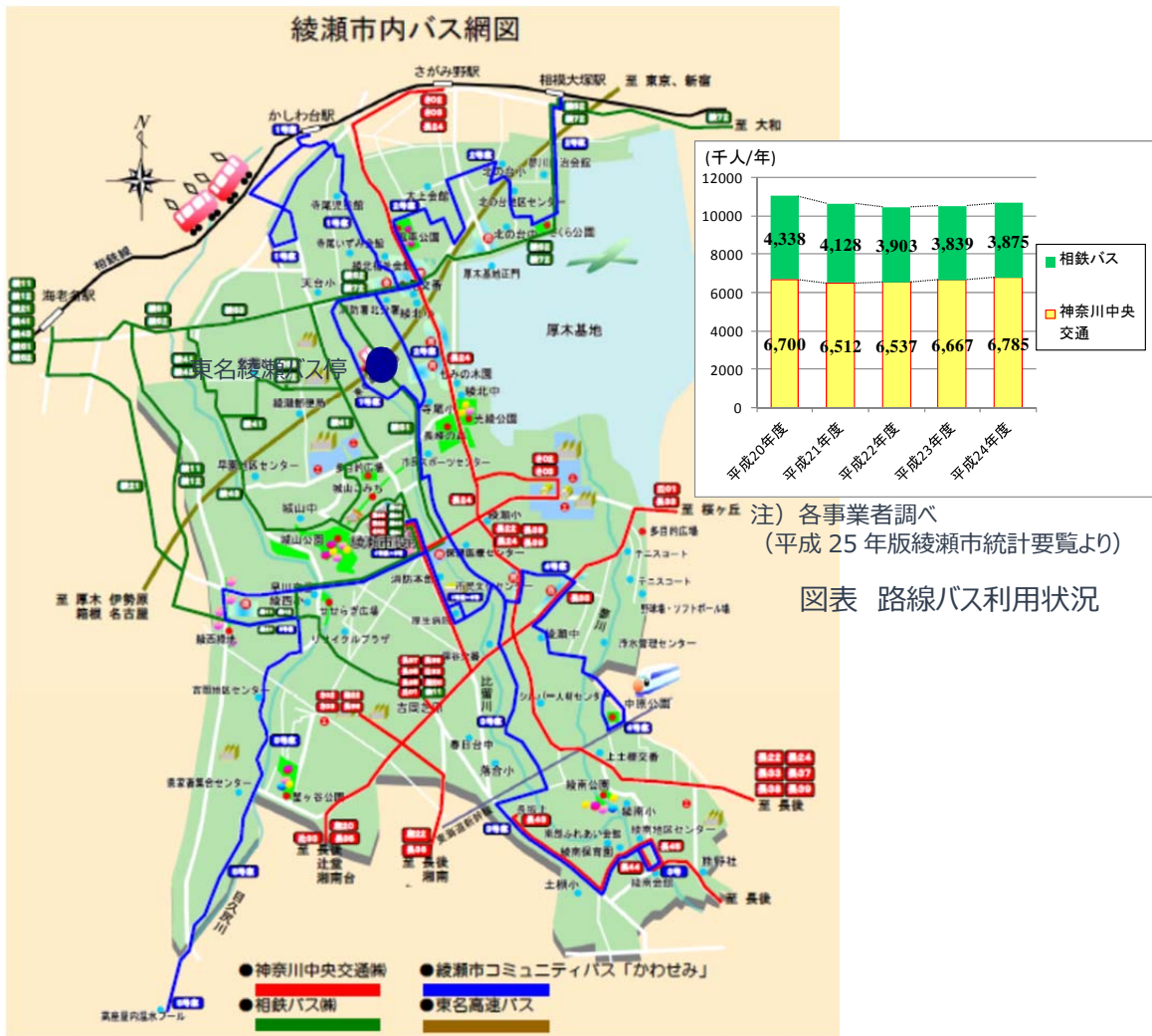
注) 「綾瀬市総合都市交通計画」(平成 22 年 12 月改定) より抜粋・加筆

図表 主要道路網及び混雑度

②公共交通サービス及び利用状況

市内の路線バスは相鉄バス及び神奈川中央交通によって運行されており、海老名駅、長後駅など市外の鉄道駅との間を結んでいます。東名高速道路には「綾瀬バス停」が設置され、東京方面への通勤を主体とする利用があります。

コミュニティバス「かわせみ」が市役所を中心に5ルート34便運行しています。路線バス利用者「かわせみ」利用者共に、近年は増加傾向がみられます。



図表 綾瀬市内バス路線網



注) 都市政策課調べ

図表 コミュニティバス「かわせみ」利用状況

(4) 観光客

①年次別推移

平成 21 年度以降は、近隣市の中で最も入込観光客数が少なくなっています。

平成 23 年度は東日本大震災の影響で激減しましたが、翌年度には平年並みに回復しています。

図表 綾瀬市及び近隣市の入込観光客数

(単位：千人)

	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
綾瀬市	112	112	119	23	111	93
厚木市	3,436	3,579	3,800	3,092	3,248	3,200
大和市	1,723	1,890	1,829	1,030	1,644	1,676
海老名市	63	286	244	278	206	217
座間市	98	88	301	254	273	360

出典：平成 25 年度神奈川県入込観光客数調査報告書

②主要行事別入込観光客数

入込観光客数のうち、8 割超が「綾瀬いきいき祭り」です。

図表 主要行事別入込観光客数

行 事	入込観光客数
綾瀬緑化フェア(5 月)	5 千人 (5%)
綾瀬いきいき祭り(8 月)	80 千人 (86%)
綾瀬イルミネーション(12~1 月)	8 千人 (9%)

出典：平成 25 年度神奈川県入込観光客数調査報告書より

③ツーリズム事業数・参加者数

平成 23 年度にサイクルツアーを実施し、初のツーリズム事業となりました。

平成 25 年度にまち歩きツアーを実施し、事業数が 2 になりました。

図表 綾瀬市におけるツーリズム事業数・参加者数

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
事業数	1	1	2
延参加者数	54 人 (うち市外 23 人)	62 人 (うち市外 13 人)	103 人 (うち市外 33 人)

6-4 この計画に関係する他の計画

(1) 総合計画「新時代 あやせプラン21」

概要：「総合計画」とは市の仕事や市民の公共的な活動のもとになる計画で、市役所が行う仕事は全て、この「総合計画」に基づいて行われます。

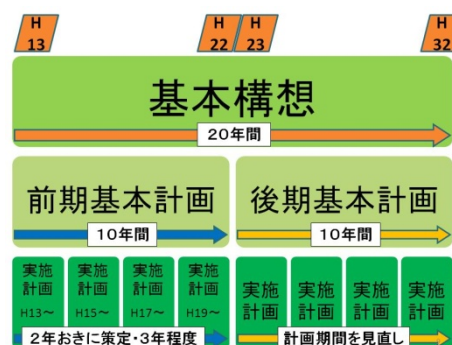
綾瀬市の「総合計画」は、3段階の階層を持ち、計画期間は20年間です。

現在、前期基本計画期間が終了し、後期基本計画へ移行しています。

後期基本計画では、「第4編 人と未来がふれあう産業創造のまちをめざして」の施策体系のひとつである「個性ある新たな産業の創出」において、「観光の振興」が位置づけられました。

策定年月：平成12年6月

計画期間：平成13年度から平成32年度



～ 基本構想の骨子 ～

将来都市像：「緑と文化が薫るふれあいのまち あやせ」

緑豊かで快適な住環境の中で、市民一人ひとりが安心して健やかに暮らせるまち、生涯学習が市民生活に一層浸透し、まちの随所で市民の創造的な活動が行われるような、文化性の高いまち、交流ネットワークと交流の拠点が形成され、人々が集い、心と心のふれあうまちをめざします。

基本目標：

- 人と自然がふれあう環境共生のまち
- 人の心がふれあう安心生活のまち
- 人と文化がふれあう個性尊重のまち
- 人と未来がふれあう産業創造のまち
- 人と人がふれあう交流拠点のまち

目標年次：平成32（2020）年度

将来人口：8万7千人をめざす（平成32（2020）年度）

(2) 綾瀬市産業振興マスタープラン

概要：総合計画において「人と未来がふれあう産業創造のまち」と定められた都市像の実現に向け、農業・商業・工業それぞれが目指すべき方向性を定めるとともに、市民・事業者・行政等の役割を明確にし、地域全体で協働の理念のもと、地域活性化を目指して策定したもので、農商工連携も視野に入れた計画となっています。

策定年月：平成 22 年 12 月

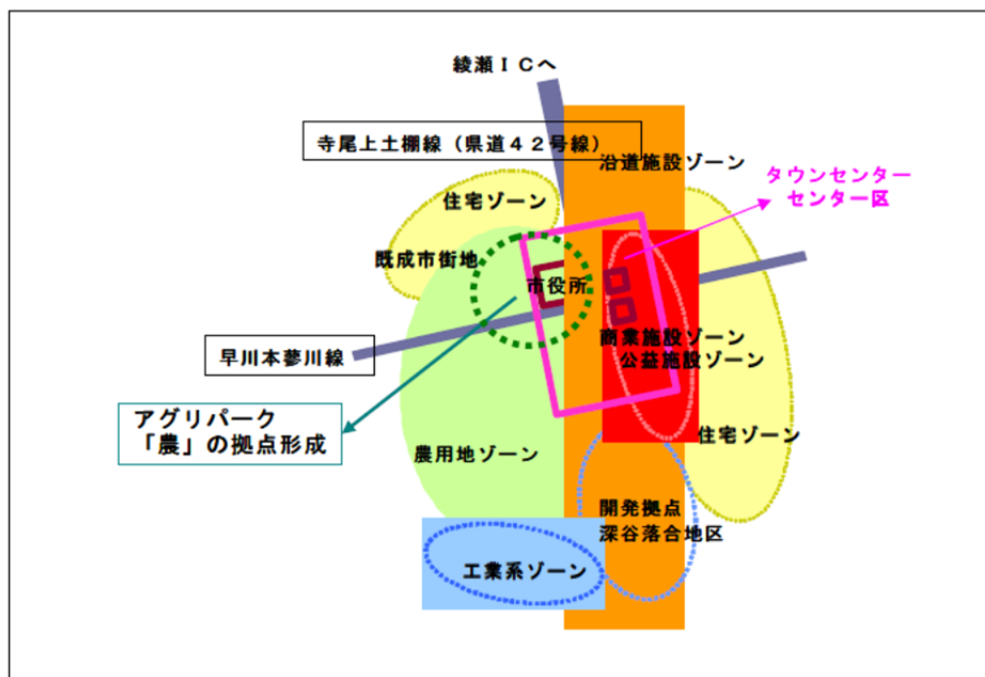
計画期間：平成 23 年度から平成 32 年度までの 10 カ年

(3) アグリパーク基本構想

概要：本構想は、農地の保全と核となるファーマーズマーケットや地場食材を活かした加工施設やレストラン、農業体験や交流の農園施設などを一体的に整備・運営し、農の 6 次産業化を進めるもので、農家・地権者、J A 等農畜産業関係団体、企業、市民・市民グループなど多くの方々の理解と協力、そして協働による実現化を目指し、基本方針、将来像、実現化方策を示しています。

策定年月：平成 24 年 12 月

地域の基本構成図



(4) あやせ都市マスタープラン

概要：都市計画法に基づき市の都市計画に関する基本的な方針を定めたもので、本市では平成 13 年に策定し、都市づくりを進めてきました。近年、都市計画に関連する法令改正や全国規模での社会情勢が変化しているほか、本市においては、中心核づくりが着実に進むとともに、東名高速道路へのインターチェンジ設置に向けた本格的な検討が進むなど、都市づくりを取り巻く環境が変化してきていることから、これらの変化に弾力的に対応し、実効性のある計画とするため、改定を行いました。

策定年月：平成 13 年 3 月

改定年月：平成 22 年 12 月

～ 都市マスタープランの骨子 ～

まちづくりの目標：「やさしさとアメニティにあふれる

緑豊かな活力のあるまち」

市民からは「綾瀬市に住んでよかった」、また、市外の方からは「綾瀬市に住んでみたい」と言われる“まち”をめざします。

まちづくりの柱：

- 人と環境にやさしいまちづくり
- 市の顔となるにぎわいに満ちた中心核づくり
- 市のポテンシャルを活かした産業創造のまちづくり
- 地区特性を活かした身近なまちづくり
- 利便性に富んだ交通ネットワークづくり
- 安全で安心して暮らせるまちづくり

(5) 綾瀬市総合都市交通計画

概要：本計画は、都市の将来を見据えた総合的な交通体系の確立を目指し、本市における望ましい都市交通を実現するための、交通政策の基本的な方向を示すものです。

「あやせ都市マスタープラン」と相互に連携を図りながら進めていくとともに、県における広域の関連計画である、「かながわ交通計画」、「かながわのみちづくり計画」との整合も図っていきます。

策定年月:昭和 59 年度

改定年月:平成 22 年 12 月

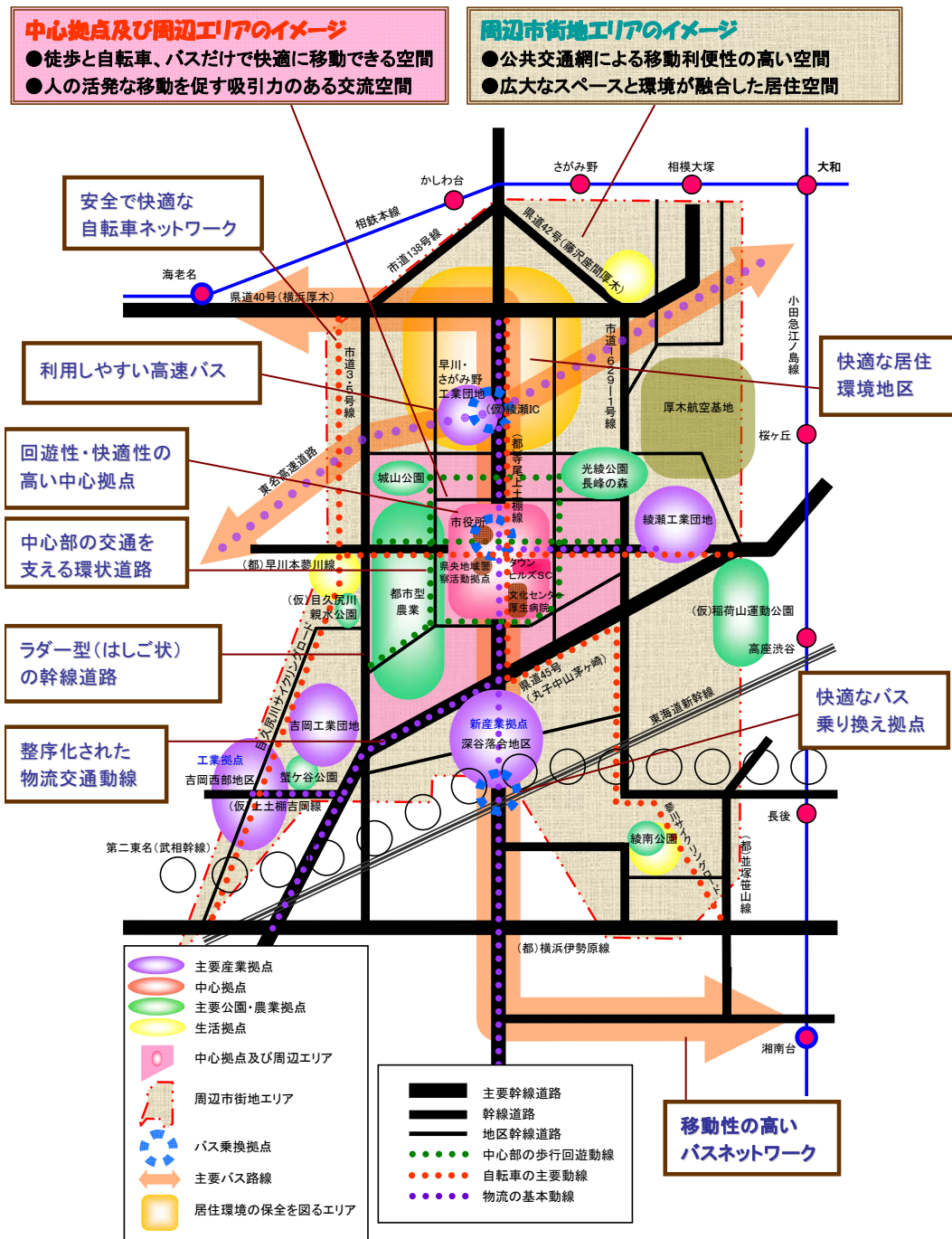
取り組み期間

短期:平成 23(2011)年度～平成 27(2015)年度

中期:平成 28(2016)年度～平成 32(2020)年度

長期:平成 33(2021)年度～平成 42(2030)年度

都市交通のイメージ






6-5 綾瀬の観光資源

ここに掲げる資源は、平成 21 年度綾瀬市観光資源創出調査報告の内容を平成 26 年度現在に時点修正したものです。この調査では、まず、観光資源となりうると想定されるものを抽出し、自然観光資源、有形人文観光資源、無形人文観光資源に分類して整理しました。


なお、21 年度調査時以降、事業終了等により現存していない資源も、参考になると思われるものはそのまま掲載しています。

1. 自然観光資源


名 称	概 要
花（バラ） 	市の花となっている。光綾公園バラ園や城山公園花木園などには多種多様なバラが植えられている。 イラストは、「バラ」の花びらのやわらかさの中に、あやせ（市民）の「あ」の字をアレンジして未来に無限の夢と希望とやすらぎのある綾瀬を図案化したもの。
花（桜）	城山公園、光綾公園、綾西緑地などで桜を觀賞できる。毎年春に行われる桜まつりではフリーマーケットや模擬店が開かれる他イベントが行われる。市役所 1 階市民ホールと市ホームページで、市内の桜開花情報を確認することができる。
花（トロピカル・カンナ）	目久尻川サイクリングロード際にトロピカル・カンナを植栽している。
野鳥（カワセミ） 	市内の森・公園には多くの野鳥が生息し、バードウォッチングにも適している。市内の河川や公園の池などの水辺付近に生息しているカワセミは市の鳥となっており、緑色の翼、コバルトブルーの背、橙色の腹部、長いくちばしが特徴で、「清流の宝石」とも呼ばれている。イラストは、綾瀬の豊かな自然環境を保つシンボルとして、斜め前から見た姿を図案化したもの。また、市のマスコットキャラクター「あやびい」はカワセミをモチーフにしている。
緑地・森林・竹林	貴重な緑を守るため、市が緑地保全区域として指定（全 8 ヶ所）、土地所有者の協力により開放されている。 寺尾の森（散策路などはなく、自然に近い状態の森）、綾北の森（自然のままの竹林）、お伊勢宮の森（散策路などはなく、自然に近い状態の森）などがある。 ※散策路、ベンチなど人の手の入ったものは「（3）公園・広場」に分類した。
木（やまもみじ） 	市の木となっている。育ちやすく気候風土に適して、市内の山林などに群生し、公園や公共施設はもちろん、各家庭の庭にも植えられている。イラストは、「やまもみじ」と AYASE（市民）の「A」の字を中心にアレンジして三枚の葉を市の基本構想の三本柱として囲み、人間性と緑ある豊かな都市綾瀬の向上と発展を図案化したものです。

2. 人文観光資源（有形）


(1) 文化財（国指定）

名称	概要
神崎遺跡 	市内にある 153 遺跡の中の 1 つで、吉岡に位置する今から約 1800 年前の弥生時代後期の環濠集落。同遺跡の調査により、当該期に東海西部の集団が南関東に移動してきた事実が明らかになった。また、環濠集落全体が未調査部分を多く残しながら、完全な形で残存している稀有な例である。これらが評価され、環濠周辺を含む 9407.97 m ² が、平成 23 年 2 月 7 日付けで国史跡に指定されている。

(2) 文化財（県指定）

名称	概要
早川城跡 	早川城跡は、今は城山公園になっているが、土塁、堀切、物見塚、曲輪など城郭の遺構が残り、往時の姿をとどめ、遺存状態が良好な中世の城跡である。早川城は、14 世紀代から 15 世紀代にかけて使用されていたと思われ、鎌倉幕府の御家人であった渋谷一族の末裔により築城されたものと推定される。
綾瀬市神崎遺跡 出土品	弥生時代の後期の出土品で、その大半が愛知県西部から静岡県東部にかけて特徴的に見られる技法で製作されており、その地方の人たちが綾瀬市吉岡字神崎へ集団移住したことを示す資料として重要。
綾瀬市寺尾遺跡 出土品	旧石器時代から縄文時代草創期までの石器、縄文式土器片など 368 点。時期の異なる 7 層の文化層が発見され、石器群の変遷が層位的に明らかにできる貴重な出土品。
綾瀬市宮久保 遺跡出土木簡	天平 5（733）年 9 月の銘がある鎌倉郷が記載された最古の資料であり、「田令」、「郡稻長」といった下級役人の職名が記され、古代の地方行政を探る上で貴重な資料となっている。
綾瀬市吉岡遺跡 群 B 区と藤沢市用 田鳥居前遺跡出 土の旧石器時代の 遺跡間接合石器	およそ 2km 離れた 2 つの遺跡から出土した旧石器時代の石器群が接合した資料で、当時の人たちの移動の実態や生活の様子を知る上で貴重な資料となっている。

(3) 文化財（市指定）

名称	概要
蓮光寺内陣彫刻 	有形文化財(建造物)。蓮光寺は、旗本遠山佐左衛門安則が文禄 3 年（1594）に建立した浄土宗の寺院。内陣にあった欄間彫刻などが当時のまま保存されている。

名 称	概 要
五社神社の 椎の大木	記念物(天然記念物)。渋谷庄の総鎮守といわれる五社神社の裏手にそびえる御神木。
大橋氏一族の 墓石群 	有形文化財(建造物)。蛭川越後（長龍道安）によって開基された曹洞宗深谷山長龍寺の境内には、宝暦 10 年（1760）に幕府直轄地となる以前、約 150 年にわたり深谷村を知行とした大橋氏一族の墓石群がある。
遠山氏累代の 墓碑群	有形文化財(建造物)。文禄年間、上土棚村を所領とした旗本、遠山佐左衛門安則をはじめとする遠山氏累代の墓碑群。
小園子之社 絵馬・奉納額 	民俗文化財(有形民俗文化財)。奉納されている絵馬・額は、江戸時代後期から明治時代初期までのもので、それぞれの画題を見ていくと、石川五右衛門・牛若丸などについての故事や説話の知識が庶民に浸透していたことを示している。また射術奉納額は、幕末における武術摂取という庶民の技芸意識を示しており、類例が少ないことでも重要。
熊野社本殿・拝殿 及び棟札 4 枚 	有形文化財(建造物)。上土棚の鎮守で熊野三神が祀られている。現在の本殿は、棟札により、享保 12 年（1727）の再建と判明し、この時、拝殿も創建されている。
小園子之社本殿 及び棟札 9 枚 	有形文化財(建造物)。小園子之社は金子重昌が願主となり、慶長 10 年（1605）に勧請された。本殿は小規模な宮造りの建物であり、彫物は精緻で、各部の造りも丁寧で質の高い建物。
五社神社本殿 及び棟札 9 枚 	有形文化財(建造物)。祭神は天照大神など 5 柱の神々。鎌倉時代に渋谷庄と呼ばれたこの近辺の総鎮守と推定される。棟札によると、造営の大工は鎌倉の円覚寺大工高階隼人道直であり、鎌倉大工の伝統的技術を窺うことができる。
熊野社絵馬 	民俗文化財(有形民俗文化財)。熊野社に奉納されている 8 点の絵馬は、江戸時代後期から明治時代前期における上土棚ならびに現綾瀬市域における庶民信仰のあり方、文芸的知識などを示す資料として重要。拝殿の中の大絵馬は外からも見る事ができる。

名 称	概 要
<p>木造地藏菩薩 坐像</p> 	<p>有形文化財(彫刻)。像立は南北朝期あるいは室町時代初期（14～15世紀）とみられ、市内最古の仏像彫刻と目される。小園地藏堂内に安置されている。</p>
<p>笠間家の ギンモクセイ</p> 	<p>樹齢 130 年と推定され、県の「名木 100 選」に選定されたこともある。開花の季節になると市内だけでなく、市外からも見学者が訪れる。</p>
<p>びわみ堂遺跡 出土の板碑</p> 	<p>今から約 700 年前の石でできた供養塔。当時の信仰を考えるための貴重な資料となっている</p>
<p>上土棚南遺跡出 土の土偶等祭祀・ 装飾関連遺物</p> 	<p>縄文時代後期(今から約 3,500 年前)の儀礼に使われた様々な道具の一部。気候の冷涼化等により社会不安が増したため、当時の人々は儀礼に力を入れるようになった。</p>
<p>早川城山遺跡 出土の奈良三彩 小壺の蓋</p> 	<p>緑・黄・白の 3 色の釉薬をかけた、今から約 1,500 年前の国産の陶器。中央政府と結びつきのある人物の所有物であったと考えられている。</p>

<参考> 綾瀬ゆかりの人物

名称	概要
春日局	徳川 3 代将軍家光の乳母として知られる春日局は、吉岡村を含めた地域 3,000 石の所領を与えられていた。吉岡に屋敷を構え、大山参りの拠点としていたもよう。屋敷跡といわれている済運寺には、局の位牌と、局ゆかりの茶臼や茶釜が残っている。
渡辺華山	江戸末期には、三河国の田原藩士であり画家でもあった渡辺華山が、紀行文「游相日記」の中で綾瀬の様子を詳しく書いている。

(4) 公園・広場

名称	概要
<p>光綾公園</p> 	市のほぼ中央に位置する公園で、野球場や約 28 種 900 本のバラ園、「多知波奈（たちばな）の池」を中心とした日本庭園、「わんぱく丸」のあるわんぱく広場、徒渉河川などがある。園内には随所に樹木が茂り、春には桜が咲き、大勢の花見客が訪れる。5 月下旬に綾瀬緑化フェアが開催される。
綾西緑地	道路沿いに桜並木があり、かながわのまちなみ 100 選になっている。
<p>城山公園</p> 	市役所の西側に位置、鎌倉時代、源頼朝の御家人として活躍した渋谷重国の居城跡と伝えられ、県内でも遺存状態の良好な数少ない城跡の一つであり、大規模な堀切と土塁が現存している。平成 13 年 6 月 1 日に再整備され、市内で 2 番目に大きい公園である。園内にはバーベキューのできる炊事棟や、66 種類約 500 本のバラや芝桜のある花木園、市内最長のローラーすべり台のある遊具広場があり、6 月初旬から日本庭園となりのわさび田跡地ではホタルが見られる。また、3 月下旬からは桜の広場で「かながわの花の名所 100 選」に選ばれた桜が鑑賞できる。
<p>綾南公園</p> 	蓼川を挟んで両側に位置する市内で初の親水公園で、ユリカモメやマガモが多数見られる。園内には、バーベキューができる炊事棟や大型複合遊具のある多目的広場、健康遊具などがある。中央部の四阿からは、滝が流れ、湿生植物に囲まれた観賞池がのぞめる。
<p>蟹ヶ谷公園</p> 	低地部、台地部、傾斜部からなる極力現況の地形を生かして設計された公園。低地部の湿生園では、吉岡地区から湧き出る湧水を水源として利用してカキツバタ、ハナショウブなど約 19,000 株があり、見晴らし台からは富士山や丹沢が一望できる。
<p>風車公園</p> 	遊具広場には複合遊具などの遊戯施設、ふれあい広場には、テーブルベンチなどの休養施設などが設置されている。多目的広場では、少年野球や少年サッカーなどのボール遊びを楽しむことができる。

名 称	概 要
綾瀬スポーツ公園 	野球場や多目的広場等のスポーツ施設が利用できる市内最大の公園。
せせらぎ広場 	四季折々の花木が楽しめる他野鳥も訪れ、約 175mの木道から観察できる。
城山こみち 	城山公園と市民スポーツセンターを結ぶ緑道。桜、ハナミズキ、ツツジ、コデマリなどが植えられ、四季折々の花を楽しむことができる。
サイクリングロード 	市内西部を流れる目久尻川に沿って伸びている。約 5.6km に及ぶ。
長峰の森 	光綾公園と市民スポーツセンターとの間に広がる保全緑地。面積は約 49,000 m ² 、約 1 kmの遊歩道があり、散策に最適の森として市民に親しまれている。綾瀬市の「緑のネットワーク構想推進」の一環として平成 12 年に開設された。スギやコナラなどの高木が中心で、野鳥も多く生息している。市指定の緑地保全区域（長峰の森管理委員会で管理）。
鶴島の森 	ベンチなどが配置。市指定の緑地保全区域。
取内の森 	珍しい植物も自生するコナラの森。市民が散策を楽しめるような環境づくりに配慮するなどの工夫を凝らしてある（落合キツツキの森管理委員会で管理）。
落合キツツキの森 	散策路あり。キツツキ（コゲラやアオゲラなど）をはじめ約 30 種の野鳥が生息。市指定の緑地保全区域（落合キツツキの森管理委員会で管理）。





(5) 名産品・推奨品など（加工食品）

名称	概要
高座豚手づくり ハム・ソーセージ 	高座豚は旧高座地方で明治時代から広く飼育され、全国の品評会で高い評価を得た豚。品種名は中ヨークシャー種。原産地イギリスでもきわめて少量生産の優良品種。「かながわの名産100選」にも選ばれている高座豚を素材にした手づくりの味が特徴。綾西バザールから南へ徒歩5分の場所に店舗がある。昭和60年秋に農事組合法人を設立し事業をスタートさせ、高座豚を使用した手造りハムの製造販売が可能となった。【販売店】(株)高座豚手造りハム
豚みそ漬 	昭和35年ごろ、「高座豚をみそ漬けにすれば、日持ちもしておいしいのでは」がきっかけで作られるようになり、昭和50年代以降販売されるようになった。日本古来のみそを生かした味付けで、独特の風味に仕上げている。【販売店】(株)大久保商店
あやせサブレ 	昭和63年に綾瀬市で行われた県内保育士の会合の土産に作られたことがきっかけ。綾瀬市の花「バラ」をかたどったサブレと「高座豚」の可愛いサブレを4種類の味にした。【販売店】(有)パレ・ド・モンパル
あやせ本醸造 	平成19年に名産品として認定。綾瀬市内で収穫した「五百万石」という酒米を主原料とし、丹沢山系の水で醸造した日本酒。【販売店】(有)矢部商店
レオとモナの “デニッシュ食パン” 	幾重にも折り込んだ生地、独特の食感が楽しめるデニッシュ食パン。丁寧にゆっくりと時間をかけ、延ばしては折り畳むという作業を何回もくり返して作られる。スイート、ロイヤル、大納言、オレンジ、ラムレーズンなど10種類の味が楽しめる。【販売店】レオとモナのパン屋さん
清酒 綾瀬 	「綾瀬」の名を冠した清酒。「長者盛・越の寒中梅」の蔵元（新潟銘醸(株)新潟県小千谷市）で造られた酒。淡麗辛口として知られる新潟清酒の中でも、特にきめの細かい上品なコクとすっきりとした後味が特徴。【販売店】(有)こばやし
ブタッコリ〜まん 	綾瀬市の特産品の「豚肉の手ごろ漬け」と「ブロッコリー」を使用した総菜パン。綾瀬市公認マスコットキャラクターである「ブタッコリ〜」が名前の由来。【販売店】リゾートベーカリー ラニパン
みそまんじゅう 	綾瀬市で育てた米「さとじまん」の麴と「津久井在来大豆」を使った自家製みそを、昔ながらの地粉（農林61号）で作った饅頭に練りこんである。餡子（こしあん・小豆・津久井在来大豆の発行大豆を使用）とチーズ味がある。【販売店】おやつ工房麻の葉



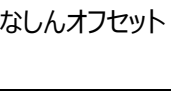
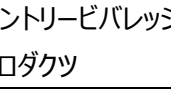
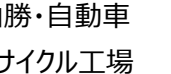
(6) 特産品〈農畜産物〉

名 称	概 要
<p>高座豚</p> 	<p>かつて、現在の綾瀬市の他、周辺の7つの市や町で構成された高座郡で広く飼育されていた。昭和10年の全国肉畜博覧会で市域から出品した2頭が最高の名誉賞と1等賞に輝いたことから、次第に綾瀬「高座豚」の名前が広まっていった。「かながわの名産100選」にも選ばれている。</p>
<p>ブロッコリー</p> 	<p>生産量は県下でもトップクラスとされる。主に寒さに強い品種が栽培され、10月から1月にかけて収穫の最盛期を迎える。市内の直売所でも販売されている。綾瀬市地場農産物消費拡大推進協議会では、綾瀬の地場農産物の普及を目指し、ブロッコリーをキャラクター化している。ネーミングを一般公募し、「あやっこりー」に決定。農産物マップやホームページなど、さまざまな場所に登場している。平成22年度まで「ブロッコリーを使ったアイデア料理コンテスト」も行われていた。</p>
<p>トウモロコシ</p> 	<p>市内7.85haで生産され、年間約85tと県内でも有数の出荷量を誇る。</p>
<p>高座すいか</p> 	<p>高座スイカ（富研号）は、昭和24年に奈良の萩原さんの協力等により綾瀬などで栽培が始まり、綾瀬の特産品として昭和28年頃をピークに生産され、東京、横浜の各市場で「高座西瓜」として爆発的な人気となりました。平成20年に奈良において富研号の復刻に成功し、復刻版として栽培され、綾瀬市の農家でも平成23年度から試験栽培を行っています。現在では、5軒の農家が集まり高座スイカ研究会を立ち上げ、よりおいしい高座スイカを消費者に届けています。</p>

(7) 農業体験施設


名称	概要
市民ふれあい農園 	ふれあい農園運営委員会事務局が運営。ふれあい農園は市内5ヶ所で、小園ふれあい農園60区画、中村ふれあい農園35区画、蓼川ふれあい農園30区画、上土棚ふれあい農園65区画、水久保ふれあい農園34区画の全体で230区画。1区画20㎡で、利用できる期間は、平成26年3月から平成29年1月までの約3年間、入園料は1万7,500円、利用資格者は市内在住の人。
あやせベリー ガーデン 	ブルーベリーの摘み取りができる。自家製ジャムなどの販売もされている。
大塚いちご園 	(1月～5月) イチゴ摘みを楽しむことができる。
旬菜みのりファーム 	収穫体験もできる直売所。年間を通して60種類を作っており、こだわりを持って作られた野菜、果物を自ら収穫して食べると、綾瀬の自然の恵みに感動します。お買い得な新鮮農作物は、お土産にするのも楽しいです。

(8) その他の施設

名称	概要
厚木基地 	米海軍の「米海軍厚木航空施設」、海上自衛隊の「厚木航空基地」として日米で共同使用されている。太平洋戦争終結後、連合軍司令官ダグラス・マッカーサー元帥が到着したことも有名。綾瀬市の行政面積の18%弱を占有。基地主催で、「日米親善桜祭り」(5月)、「アメリカンフェスティバル&盆踊り」(8月)などの日米交流イベントが開催されている。
ドリームプレイウッズ 	平成14年、深谷中7丁目の森にオープン。自然を活かした環境の中で遊ぶ場を提供しようと開設。ハンモックブランコ、竹の滑り台、ターザンロープ、竹製ジャングルジムなどの遊具が設置されている。「自ら考え、自らの責任で遊ぶ」ことをテーマに、年間約1万8千人が利用するスポットとなっている。市指定の緑地保全区域。
かなしんオフセット 	新聞印刷工場。新聞印刷の様子やビデオ見学で、新聞ができていく工程を理解できる。
サントリービバレッジ プロダクツ 	幼稚園、学校のクラス単位の見学のみ受けている。
山勝・自動車 リサイクル工場 	見学を受けている。

3. 人文観光資源（無形）

(1) 文化財（県指定）


名称	概要
相模のささら踊り 	民俗文化財(無形民俗文化財)。江戸時代中期に始まったとされるささら踊りは、男女交際の場でもあったといわれる。昭和50年、寺尾と深谷の有志により復活。綾瀬ささら踊り保存会により传承されている。ささらという楽器を使うのが特徴。

(2) イベント<総合>



名称	概要
光・食・文化の祭典～Ayase Base side Festival～	(5月/光綾公園野球場) 本市が持つ特性を観光資源として、市外からも多くの来訪者を獲得することを目的とした観光イベント。主なプログラムはプロジェクションマッピング、グルメ出店、ステージパフォーマンスなど(平成27年度～)。
あやせ大納涼祭 	(8月/市民文化センター周辺) 市民の交流を図り郷土意識を高めることを目的とした祭り。囃子（はやし）の軽快な演奏、大きな輪となって踊る盆踊りや阿波踊り、躍動感あふれるよさこいの演技、そして最後は大迫力の神輿が練り歩き祭りを締めくくる。
商工会青年部 花火大会 	(8月/市民文化センター周辺) 市商工会青年部が主催し、あやせ大納涼祭と同時開催される。約2,000発の花火が打上げられる。
桜まつり 	(4月第1日曜日) 桜が咲き誇る会場で、人気のキャラクターショーや各種模擬店などが出店される。
ハンドメイドマルシェ ayase 	綾瀬市役所南側広場で手作り作品の販売、作品コンテスト、ワークショップなどのほか、飲食や地場物産の販売などを催す(平成26年度～)。
綾瀬イルミネーション 	(12月～1月/市役所) 冬の新たな観光名所を作り出し、その集客効果による商業の活性化を目的として、市内の商工業者を中心に結成された、綾瀬イルミネーション実行委員会が主催。期間中は、市役所が約45,000の電球で飾られる他、綾西バザール、綾北商店会でもイルミネーションが登場する。キャンドルナイトや「よさこい踊り」の披露など各種イベントも行われる。

名 称	概 要
80000人の キャンドルナイト 	地球温暖化防止のために環境省で実施する「CO2削減・ライトダウンキャンペーン」の一環としてスタート。キャンドルの光に包まれながら、静かな夜を過ごす。
市民ホール コンサート 	(毎月1回0:25~0:50(約25分)/市役所1階ロビー) 昼休みに生演奏が行われる。
ふれあいナイト ウォークラリー大会 	(7月/市役所周辺) 夜の綾瀬を家族や仲間とクイズを解きながら歩く。2013年度で21回目となる。
あやせ“よさこい” 	市商工会女性部が地域活性化を目的に普及啓発に取り組む。あやせ大納涼祭、あやせ産業まつり、綾瀬イルミネーションなどで披露。
コミバス親子市内 名所探検ツアー	市制施行30周年記念事業として行われた。コミュニティバスを使って、親子で市内の名所・旧跡を探検するツアー。
びゅ〜とあやせ 	自転車で市内の名所と飲食店を回るスタンプラリーイベント(平成25年度~)。
まち歩きツアー 	工場見学を中心としたまち歩きツアー(平成26年度~)。

(3) イベント<自然>

名 称	概 要
綾瀬緑化フェア 	(5月下旬/光綾公園) ステージでの吹奏楽演奏や、花の種、フラワーポット、苗木の無料配布の他、植木市や園芸相談など緑にちなんだ催しが行われる。
綾瀬ガーデニング フェア	(10月/市役所) 市民手作りのミニガーデンを展示。平成24年度まで4回開催された。

(4) イベント<商工・農産物>

名 称	概 要
農商工連携事業 あやせ産業まつり ～商工フェア・農業 収穫祭～ 	(11月/市民文化センター周辺) 市内の農・商・工業者が集い、販売や展示など各種催しを通じて、綾瀬の産業をPR地元商業者の魅力をPRする。展示販売や各種イベントが行われる。大釜豚すきも配布される。
朝一番徳の市 	(4月から12月までの第1日曜日/市民文化センター駐車場) 地元産の野菜をはじめ、市内食品工場の加工品、惣菜、菓子などが販売される。
愛菜市	(毎週日曜日10:00～売切れ終了/J Aさがみ集出荷場) 地元産の野菜、鶏卵などが販売される。
フレッシュマーケット	(毎週水曜日10:00～14:00/J Aさがみ集出荷場) 地元産の野菜、鶏卵、加工品などが販売される。

4. 観光活性を促す施策・媒体

(1) 観光マップ

名 称	概 要
あやせ緑の小旅行 ガイド	サイクルツアーでの訪問先を中心に作成された観光マップ。市内の名所など25か所が掲載されており、散歩、サイクリングにおすすめの3つのモデルコースを紹介している。
あやせグルメマップ	市内飲食店56店舗を紹介する。平成24年度の発行時にはグルメスタンプラリーも併せて開催した。
あやせスイーツ セレクション	手作りスイーツの情報を満載したリーフレット。スイーツ店、カフェなど8店舗を紹介。
あやせ観光 カレンダー	綾瀬の四季のイベントや動植物の写真が掲載されているカレンダー。市商工会ホームページからダウンロード可。

(2)「あやせウォークガイド」(徒歩モデルルート)

コース名称	概要
あやせの高台コース	<p>(約2.7km) この辺りは海拔が高いため、見晴らしの良い地点が多い。とげぬき地蔵は「いぼとり地蔵」とも呼ばれ、供えられている小石を借りていぼをなでると治るといわれている。</p> <p>富士塚バス停～(1)富士塚跡～(2)八王子往来～(3)不動尊～(4)ぞうきん塚～(5)座頭転がし～(6)とげぬき地蔵～(7)子之社～寺尾入口バス停</p>
塩つけ道コース	<p>(約3.5km) 蓼川沿いを南北に走る塩つけ道は、横浜市金沢区の六浦海岸で採れた塩を、八王子まで運んだ道だといわれている。「水頭」、「出頭」、「出合頭」と呼ばれる辺りは蓼川の水源。</p> <p>相模大塚駅～(1)巡礼街道～(2)塩つけ道～(3)蓼川神社～(4)弁才天～(5)地蔵堂～(6)水頭～(7)廻国供養塔～相模大塚駅</p>
渡辺華山とお銀さまコース	<p>(約3.1km) 江戸時代の『游相日記』には、渡辺華山が小園に住む「お銀」という女性を訪ねた様子が描かれている。子之社の本殿・棟札・絵馬・奉納額は市指定文化財。</p> <p>早川バス停～(1)お銀さまの墓～(2)地蔵堂～(3)寺子屋師匠の墓～(4)子之社～(5)古東海道～(6)小園橋～(7)長泉寺～(8)笠間家のギンモクセイ～(9)第六天神社～早川バス停</p>
おたすけ観音コース	<p>(約3.5km) 報恩寺の本尊は、第2次大戦中「おたすけ観音」として信仰を集めていた。長龍寺には、江戸時代の深谷村を治めていた大橋氏一族の墓石群がある(市指定文化財)。</p> <p>綾瀬農協前バス停～(1)深谷神社～(2)長龍寺～(3)妻之神～(4)子育て観音～(5)寺尾遺跡～(6)報恩寺～(7)山王塚～寺尾バス停</p>
渋谷氏コース	<p>(約5.3km) 城山公園は、鎌倉時代に綾瀬市域を治めていた渋谷氏一族の早川城の跡といわれている(県指定重要文化財)。市指定文化財の五社神社も「五所宮」として、鎌倉時代の文献に見られる。</p> <p>市役所～(1)早川城跡～(2)宮久保遺跡～(3)虚空蔵橋～(4)龍洞院～(5)五社神社～(6)峰通り～(7)江川天神社～(8)東郷道路～市役所</p>
日蓮さんコース	<p>(約5.1km) 「落合」という名称は鎌倉時代の文献にも見られ、幕府御家人であった渋谷氏ゆかりの地であったと推定される。稲著社には江戸時代の造立を示す棟札が残されている。</p> <p>落合バス停～(1)男坂～(2)稲著社～(3)ひょうたん転がし～(4)御嶽神社～(5)中原街道～(6)大法寺～(7)玄正橋～落合バス停</p>

コース名称	概要
春日局コース	(約3.5km) 江戸時代、吉岡村は春日局の所領であった。神明社には局が勧請したことを示す棟札が、済運寺には局の位牌と局が使ったという茶臼と茶釜が残っている。 国分寺台第11バス停～(1)神明社～(2)済運寺～(3)駒井不動～(4)山王社～(5)正福寺～(6)春日道・春日原～国分寺台第12バス停
古代遺跡コース	(約2.3Km) 神崎遺跡からは弥生時代後期の環濠集落で、東海地方からの集団移住があったことが分かっている。また、吉岡遺跡群からは約4万年前の石器が出土しており、県内最古の資料となっている。 神崎遺跡前バス停～(1)神崎遺跡～(2)豊川稻荷～(3)道庵橋～(4)吉岡遺跡群～女坂バス停
江戸の殿さまコース	(約3.6km) 江戸時代に上土棚村を治めていた遠山氏一族ゆかりの熊野社や蓮光寺には、市指定文化財が多い。綾南公園は野鳥観察にも利用されている。 並塚バス停～(1)熊野社～(2)蓮光寺～(3)丸山大神宮～(4)上土棚南遺跡～(5)地蔵坂～(6)上土棚遺跡～(7)第六天神社～上土棚バス停

※市のホームページに、地図及び各ポイントの説明付きで紹介されている。

※史跡ガイドボランティア育成講座が実施されている。(生涯学習課。50歳以上対象。)

(3) あやせタウンガイド

市の概要をまとめた広報誌。観光関連のコンテンツは以下のとおり。

コンテンツ	概要
「施設紹介」	「施設紹介」のページに、光綾公園、城山公園、綾南公園、蟹ヶ谷公園、風車公園、城山こみち、サイクリングロードなどが掲載。
行事カレンダー	春の「綾瀬緑化フェア」、夏の「大納涼祭」、秋の「あやせ産業まつり」、冬の「綾瀬イルミネーション」など季節ごとのイベントを紹介。
あやせ名産品	あやせ名産品会の4品を紹介。
サイクルツアー 周遊コース	サイクリングを楽しめる南部・中央部・北部の3コースを紹介。コースは地図にも掲載されている。

(4) 広報あやせ

市の広報紙。毎月1日・15日に発行。市のホームページからも閲覧が可能、音声版もある。

(5) 「あやせ産業観光ガイド」(商工会作成)

季節のイベント、「あやせウォークガイド」のコースとコースごとの推薦の店、綾瀬の名産品、推奨品などが掲載されている。

6-6 ベンチマークの設定根拠

- ベンチマークの指標にはメインテーマごとに重要と考えられる項目を設定しました。
- ベンチマークの設定期間には綾瀬市の観光に関する外部環境が大きく変化する平成29年度、平成32年度、そして計画策定時から10年後となる平成36年度を設定しました。
- 項目ごとの目標数値の根拠は表下の※印部分に記しました。

メインテーマ	サブテーマ	備考
特色あるまちづくり	1 綾瀬ならではの祭りの開催	
	2 厚木基地の活用	
	3 県内トップレベルの工業集積の活用	
	4 市民全員で支援・応援できるものをつくる	中長期的に検討
	5 農業の活用	
	6 グルメ開発	
	7 着地型旅行の継続・充実	
都市・交通基盤の整備・充実	8 インターを核とした交通拠点づくり	中長期的に検討
	9 気軽にサイクリング・散策できるまちづくり	
	10 集客力ある商業拠点づくり	中長期的に検討
	11 スポーツツーリズムの推進	中長期的に検討
	12 地元交通事業者との連携強化	
	13 マイカー・観光バスの利便性向上	
行政と市民等との協働の促進	14 市民が参画しやすい方策の導入	
人材の発掘・育成	15 セミナー・ワークショップ等の開催	
	16 若い担い手育成	
情報提供・案内・PRの充実	17 マスコットキャラクターの活用と支援	
	18 観光マップ等パンフレットの充実	
	19 ロケツーリズムの推進	
	20 メディアを活用し露出を増やす	

- ※1 平成27年度はロケツーリズム着手により年115千人の来訪者を見込んでいる。その後、毎年前年比1割増を目標に設定。
- ※2 ツアー開催回数・規模の増大により、平成29年度には200人の参加を、その後は50人ずつの増加を見込み、300人を目標に設定。
- ※3 10年後に県平均値である5,000円となることを目標に設定。
- ※4 新規ツアー企画、土産品開発等を通じて、10年後までに約20件増を目標に設定。
- ※5 現在歴史散策及びサイクリスト向けに12ルート。今後自動車向けルート、四季ごとのルート等設定を見込み、5件の増を目標に設定。

平成 29 年度

(仮称)綾瀬インターチェンジ
設置予定

平成 32 年度

東京オリンピック
開催予定

平成 36 年度

計画策定時から
10 年後

ベンチマーク				
項目	現状	平成29年度	平成32年度	平成36年度
イベント参加者数 ※1	93千人	130千人	170千人	253千人
ツアー参加者数 ※2	103人	200人	250人	300人
消費単価 ※3	1,252円	3,000円	4,000円	5,000円
活用されている 観光資源数 ※4	97件	100件	107件	115件
観光ルート数 ※5	12ルート	12ルート	13ルート	17ルート
市民活動センター 登録団体数 ※6	138団体	140団体	145団体	150団体
セミナー・ワークショップ 開催数 ※7	年3回	年5回	年5回	年5回
ロケ受入実績 ※8	30件	50件	60件	70件
マスメディア(紙面) 掲載実績 ※9	18件	25件	40件	50件

※6 10年後に観光まちづくり推進により現状比12団体増を目標に設定。

※7 平成26年度から2回増やし、平成29年度から年5回を継続して実施することを目標に設定。

※8 ロケツーリズムの推進により10年後までに70件にすることを目標に設定。

※9 タウン誌、新聞等に新規事業のPR、現状の2倍の掲載を目標に設定。

素敵なあやせ観光まちづくりプラン

発行年月 平成27年3月

発行 綾瀬市

〒252-1192 神奈川県綾瀬市早川 550 番地

電話 0467-77-1111 (代表)

綾瀬市 環境経済部 商工振興課



綾瀨市

綾瀨市 環境経済部 商工振興課

〒252-1192 神奈川県綾瀨市早川 550 番地

電話 0467-77-1111 (代表)